平成２５年度事業報告書

（平成２５年４月１日から平成２６年３月３１日まで）

はじめに

当財団は、横浜市との連携のもと、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的としています。

今年度も、事業計画書、指定管理提案書に基づき、多くの市民の皆様方に親しんでいただける様々な事業を展開してきました。とくに、都市発展記念館・ユーラシア文化館は開館 10 周年であり、記念特別展として開催した「マルコ・ポーロ展」「遣唐使展」「関東大震災展」は、いずれも好評で、目標を大きく上回る観覧者がありました。「関東大震災展」は、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室での連携展示であり、マスコミでも多数紹介され、話題となりました。歴史博物館では、「年中行事展」が好評で「開館記念感謝デー」は過去最大の来館者で賑わいました。

今年度においても、施設の枠を超え、財団の組織力を生かした事業を実施することにより、着実に成果をあげることができました。

実施事業

法人事業

Ⅰ　財団本部事業

公益事業

Ⅰ　埋蔵文化財センター事業
Ⅱ　市史資料室事業
Ⅲ　史跡等管理事業
Ⅳ　歴史博物館事業
Ⅴ　開港資料館事業
Ⅵ　都市発展記念館事業
Ⅶ　ユーラシア文化館事業
Ⅷ　三殿台考古館事業

収益事業

Ⅰ　歴史博物館収益事業
Ⅱ　開港資料館収益事業
Ⅲ　都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

（注）なお、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、「事業内容」欄等をゴシック文字で表記しています。

法 人 事 業

Ⅰ　財団本部事業

1　財団本部事業

事業調整、諸会議の運営、規則整備等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適正に執行いたしました。

	事業区分	事　業　内　容
1	財団管理施設の事業調整	（1）諸会議の運営 ①役員会　月２回 ②企画会議　月１回 ③管理職会議　月１回 ④課長会　月２回程度 ＜主な検討項目＞ ①理事会・評議員会について～議題等の検討 ②「協約」平成 26 年度年次計画について ③「関東大震災 90 周年」連携展示について ④企画展報告、計画～平成 24 年度・25 年度開催企画展の評価、平成 26 年度開催企画展の計画 ⑤「寄附金等取扱規則」の制定について ⑥平成 27 年度開催「大横浜展」について ⑦港北ニュータウン整備事業について ⑧収蔵庫害虫問題について ⑨平成 25 年度予算外執行について ⑩財団における会議の見直しについて ⑪超勤命令の適正化について～超勤手続きの適正化、休日出勤に伴う振替の徹底化 ⑫クレーム対応、再発防止について ⑬指定管理者選定評価委員会開催対応について ⑭事業報告書・決算書作成 ⑮平成 26 年度事業計画・予算書作成
2	理事会・評議員会の開催	（1）理事会の開催　年４回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 （2）評議員会の開催　年２回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
3	財団人事・労務	（1）職員の採用・退職事務 （2）職員採用試験の実施

		（３）職員給与手当計算・支給 （４）高年齢雇用継続給付 申請 （５）社会保険、所得税、住民税の控除・納付 （６）臨時職員雇用保険加入・喪失 （７）定期健康診断の実施 （８）労災申請等 （９）職員メンタルヘルスの支援
4	**財務の管理**	（１）予算管理、全体調整 （２）決算・中間決算 （３）消費税・法人税 申告・納付 （４）消費税改定に伴う調整 （５）所得税法定調書の作成・提出 （６）総務課事業の予算執行、現金管理 （７）業者選定委員会の開催、入札 （８）「寄附金等取扱規則」の制定
5	**研修計画の作成・実施**	（１）管理職研修の内容検討・実施 （２）新採用職員研修実施 （３）財団内部研修の実施 （４）外部研修への参加調整
6	**所管局への報告・調整**	（１）指定管理報告提出(月次、四半期、年度) （２）事業報告・決算書に基づく市会報告 （３）横浜市平成 26 年度予算編成にかかる調整
7	**防災対策**	（１）防災訓練の実施 （２）防災用品・備蓄品の更新
8	**共同広報の実施、メルマガの配信**	（１）財団ホームページの管理 情報公開項目の更新等 （２）メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信　月1回および臨時号
9	**エデュケーター事業**	（１）学校による博物館利用の促進 ①財団各館での見学時の解説・ガイダンス ②小学校への「訪問授業(吉田新田・旧東海道等)」や「学校内資料室」での解説 ③市教育委員会・小学校社会科研究会・市PTA連絡協議会への案内 ④体験学習「土器作り」への協力 ⑤教員のための学習会 準備・実施 ⑥教員のための「現地(関内方面史跡等)見学」解説 （２） 教育委員会・各種研究会・学校との連携事業の企画・実施・調整 ① 学校・地域への出張研修及び訪問授業 ② 教育支援体験プログラム見本市の企画・実施・調整 ③ 各区(戸塚・神奈川)社会科研修会の企画・実施

		④「博物館利用研究会」・「中学校教材開発研究会」で教員と協議・研究 ⑤財団主催「吉田新田学習会」の実施・運営 （３）文化庁補助事業「博物館デビュー支援事業」計画・運営・研修会実施 ① 校内資料室視察・活用検討会開催(年間３回、大道小・川和小・中山小) ② 実行委員会開催(年間３回) ③研修会「学校に歴史資料室をつくっちゃおう、フォーラム2014」開催 （４）授業を伴う研究会への助言 （５）高校生・大学生の見学・研修への対応 （６）訪問授業の案内・準備・実施 （７）小学校・中学校教員への授業相談など対応（指導案づくり・資料相談）
10	**その他**	（１）５年に一度のシステム更新の調整・実施

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	事業調整、諸会議の運営、人事労務事務等、適切に実施することができた。	B

（注）評価について
各事業について、平成 25 年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。
評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価：目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価：目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価：目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価：目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価：目標値 80%未満

公 益 事 業

Ⅰ　埋蔵文化財センター事業

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめ刊行しました。

また、その成果を市民に還元するとともに、埋蔵文化財保護への関心を高めるため、広報紙の発行や遺跡見学会・講座・展示等の開催のほか、図書館や地区センターなど他の公共施設と連携しての展示・講演会等を実施しました。とくに**「横浜の遺跡展」では観覧者・講演会参加者ともに昨年度にも増して目標を大きく上回りました。**一方、保管資料の再整備をボランティアの協力を得て実施しました。

年度当初予定のなかった発掘調査事業は計４件を受託したほか、市教育委員会の実施した測量調査に協力しました。

１　埋蔵文化財整備事業（定款第４条第１項第１号①）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、報告書としてまとめました。また、写真資料等のデジタル化や、ボランティアの協力を得た出土品再整備を進め、資料の保管状況を改善しました。

（１）遺物整理・調査研究

項　　目	事　業　内　容
権田原（ごんたっぱら）遺跡の基礎整理（４／４年次）	出土品接合・復元、図面等記録類の基礎整理作業を実施。 先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良平安時代集落ほか。 現在地：都筑区早渕３丁目（旧港北区新吉田町）
権田原（ごんたっぱら）遺跡の整理報告 古墳時代後期～平安時代（２／２年次）	遺物写真の撮影、遺構写真の選別・原稿化、実測図等挿図データの作成、文字原稿執筆、報告書編集、印刷用デジタルデータの作成、報告書印刷を実施。
権田原（ごんたっぱら）遺跡の整理報告 弥生時代後期～古墳時代前期　（１／２年次）	土器の実測・挿図作成を実施。
権田原（ごんたっぱら）遺跡の整理報告 旧石器時代～縄文時代（１／３年次）	土器の断面実測・トレース、拓本作成、石器実測・トレースを実施。
港北ニュータウン内遺跡の記録類検討・整理	神隠丸山遺跡の挿図作成、原稿執筆。

（２）報告書刊行

項　　目	事　業　内　容
権田原（ごんたっぱら）遺跡（Ⅳ） 古墳時代後期～平安時代	**遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。** 作成部数３００部　※権田原遺跡は４冊に分けて報告書を刊行する。

（3）資料保存・整理

項　　目	事　業　内　容
記録資料デジタル化	フィルム写真資料を高精細スキャンし画像データ化した。また、検索用データを作成し、資料保存と活用の利便性向上を図った。 デジタル化点数　２，２６２カット/２０日（前年度：4,730 カット/41 日）
出土品等保管再整備	上谷本第３遺跡・祥泉院遺跡の再整理作業を実施した。（計５９箱） また、上記遺跡に加え宮沢遺跡出土遺物の再水洗作業等を実施した。 これらの作業には、**整理ボランティア延べ１０４名の協力を得た。**
図書等の受入れ・整備	受贈図書の受入れ、整理、保管、データのカード化などの整備を行い、市民の利用に供した。 受入れ点数：　調査報告書　　８７７点 その他　　３２４点 合　計　　１，２０１点

２　普及啓発事業（定款第４条第１項第１号②）

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙やホームページ等での情報発信及び歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。また、**新規事業として地域の遺跡等を見学する地域歴史散策を実施しました。**

（1）広報

項　　目	事　業　内　容
『埋文よこはま』の刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 埋文よこはま２８・２９（年２回）　　各１０，０００部
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Ｑ＆Ａ、財団各施設の情報提供、刊行物の紹介等を行った。本年度は２回更新した。 アクセス件数　１２，１５８件　（前年度１２，８２０件）

（2）講座・講演会等の開催

名称／開催期間	事　業　内　容
講座「横浜の考古学」 平成 25 年 11 月 8 日（金）・11 月 15 日（金）（連続）	『他地方との交流・交易』をテーマに、調査研究員が講師となり連続講座を実施した。本年度は２日間で全４講座を開催した。 第１回　「縄文時代の交易」山田光洋 第２回　「土器と集団」石井　寛 第３回　「弥生時代の鉄器・玉類をめぐって」古屋紀之 第４回　「埴輪と土器から観た集団関係」鈴木重信 会　場：歴史博物館　講堂 参加料：１，０００円 参加者：６５人（目標：１００人）

「横浜の遺跡展」関連講演会 平成 25 年 1 月 12 日（日）	「横浜の遺跡展」関連事業として、講演会・座談会を実施した。 テーマ：『古代武蔵・相模の考古学－拠点集落と地域支配－』 「横浜市都筑区北川谷遺跡群とその周辺」 古屋紀之（埋蔵文化財センター） 「古代武蔵国における須恵器の流通と集落遺跡の分析から武蔵国入間郡の「郷」を考える」 根本 靖（所沢市立埋蔵文化財調査センター） 「古代武蔵・相模の拠点集落と末端支配」 田尾誠敏（東海大学） 会　場：歴史博物館 講堂 参加料：５００円 **参加者：１６５人**（目標：７０人）
体験学習 定期開催：6～12 月の偶数月最終土曜日及び夏休み期間に実施	偶数月の最終土曜日と学校の夏休み期間中を定期開催日として、土器文様の拓本とり、勾玉づくり、土器パズルづくり、弓矢づくりのうち２種を１セットとする体験学習教室や、竪穴住居跡の体験発掘を開催した。 体験学習（１０回開催）　参加者：５５人 体験発掘（１回開催）　参加者：６人 参加者合計：６１人（目標：１５０人） 定期開催のほか、出前での開催を全５回実施した。 5/18（土）　本郷地区センター祭り　参加者：１２人 8/21（水）　栄図書館　参加者：１５人 8/22（木）　青葉台コミュニティハウス　参加者：２０人 8/25（日）　栄区民文化センターリリス　参加者：６０人 9/７（土）　睦コミュニティハウス　参加者：２人 参加者合計：１０９人
地域歴史散策	**栄地域史研究会と連携**して、地域の遺跡や由緒ある寺社を見学・散策した。 5/25（土）　「笠間周辺の遺跡と民間信仰を探る」 参加者：１４人（募集人数２０人） 11/22（金）　「證菩提寺周辺を歩く」 参加者：１４人（募集人数２０人）
子どもアドベンチャー2013 平成 25 年８月 20 日（火）	横浜市主催の「子どもアドベンチャー2013」に参加し、遺跡から出土した土器の水洗い体験を実施した。 参加者：２７人（募集人数４０人）
栄区イベント「MISIA の森プロジェクト」 平成 25 年 7 月 13 日（土）・14 日（日）	「MISIA の森プロジェクト」の一環として、埋蔵文化財センター校庭で熱気球を上げるイベントを栄区主催で開催。 来場者を対象に勾玉作り・拓本とりを実施した。参加者：7 人

講師派遣	7/16（火）　鹿島保宏　会場：笠間中央公園 「笠間中央公園遺跡についての解説」（主催：西本郷小学校） 参加者：３０人 10/17（木）　石井　寛　会場：小牧南遺跡 「縄文時代の掘立柱建物に関する調査指導」（主催：三重県埋蔵文化財センター） 12/2（月）　鹿島保宏　会場：かさまゆうわ館 「栄区内発掘データについて」（主催：栄地域史研究会） 受講者：２０人 ※埋蔵文化財に関するもののみ。体験学習を伴うものは割愛。
埋蔵文化財センター見学者対応	埋蔵文化財センターへ来館した市民に、センターを案内し資料について解説を行った。 見学者：５３５人（前年度３０５人）

（３）展示等の開催

企画展名/開催期間	事　業　内　容
平成 25 年度　横浜の遺跡展 「古代都筑郡の考古学 ー北川谷遺跡群から「郷」を考えるー」 平成 25 年 12 月 7 日(土)～ 平成 26 年 1 月 13 日（月・祝） 会期２６日	本年度発掘調査報告書を刊行した権田原遺跡を中心とする北川谷遺跡群の「郷の中心地」としての性格を明らかにし、古代の郷を考古学的に考えることをテーマに、港北ニュータウン地域内遺跡群整理報告事業の成果を発表した。関連事業として講演会・座談会を開催した。 同時開催：「市指定文化財の“はにわ”たち」展 会場：歴史博物館 企画展示室 **観覧者：４，２９５人**（目標：３，０００人） また、開催中フロアレクチャーを３回実施した。 12/15（日）　午前：１４人　午後：１８人 1/12（日）　午前：５４人 参加者：計８６人（定員９０人）
図書館での展示	図書館で出土品及び写真パネルの展示を実施した。金沢図書館では期間中フロアレクチャー・講座を開催した。 栄図書館　6/7～6/30 金沢図書館　9/9～11/29 参加者：フロアレクチャー　４０人・講座　３０人
展示室リニューアル **平成 25 年４月 10 日オープン**	展示室の展示について、出土資料や写真資料・解説文を充実させ、映像資料も視聴できる環境を整え、より市民が利用しやすくわかりやすい展示に再整備した。

（4）市民協働

項　　目	資　料　の　内　容
ボランティアの活用	体験学習の実施にあたって、ボランティアの協力を得て開催した。 **活動延べ人数：２６人**

（5）実物資料利用

項　　目	事　業　内　容
発掘資料・写真資料の貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示　１２件 コミュニティハウスで常設展示　１件 郷土史団体等市民団体　１件 横浜市ほか公共機関　２件 写真貸出：横浜市ほか公共機関　２件 写真掲載：博物館等の施設　２件 出版社等　７件 放送等　３件 横浜市ほか公共機関等　８件

子どもアドベンチャー

「横浜の遺跡展」フロアレクチャー

展示室リニューアル

３　発掘調査事業（定款第４条第１項第１号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。

（1）発掘調査

事業略名称	遺　跡　名	所　在　地	調査区分	委　託　者
※市教育委員会の測量調査に協力	日吉台防空壕	横浜市港北区日吉台	確認調査	―
本町小学校内遺跡発掘調査	本町小学校内遺跡	横浜市中区花咲町	本調査	横浜市教育委員会
宮ノ前横穴墓群確認調査	宮ノ前横穴墓群	横浜市栄区鍛冶ヶ谷	確認調査	横浜市環境創造局
神奈川台場東取渡り道確認調査	神奈川台場	横浜市神奈川区神奈川	確認調査	横浜市都市整備局

（２）整理報告書作成

事業略名称	遺　跡　名	所　在　地	委　託　者	備　考
神奈川台場東取渡り道確認調査	神奈川台場	横浜市神奈川区神奈川	横浜市都市整備局	報告書を刊行

４　施設連携事業（定款第４条第１項第１号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項　　目	事　業　内　容
ふるさと横浜探検 埋蔵文化財センターから武家の古都鎌倉へ	横浜市歴史博物館と共催で、埋文センターの展示見学とセンターから鎌倉までのハイキングコースを散策しながら、沿道の百八やぐら・覚園寺・永福寺跡を訪ねた。 講師：小林康幸氏（鎌倉市教育委員会） 11/13（水）　参加者：２１人
横浜市歴史博物館展示協力	特別展「N.G.マンローと日本考古学」（会期　4/6～5/26）・企画展「水へのいのり―古代東国の川辺と井戸のまつり―」（会期　7/27～9/23）の展示にあたり、出土品及び写真資料の貸し出し等協力を行った。
施設連携広報 「古代人ワールド」	夏季に開催される考古関連の体験学習について、歴史博物館・三殿台考古館と３施設共同のチラシを作成し配布した。 （枚数：4,500 枚）

５　埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行ないました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
埋蔵文化財センター	施設の維持管理 おもな修繕等：図書室空調設備の設置を実施した。
	研修室の利用 ６団体

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン所在遺跡について、予定どおり整理報告作業をすすめ、報告書を刊行しました。記録資料デジタル化は、昨年度に比べ実働日数は少ないものの、着実に進めることができました。また、出土品等保管再整備は、ボランティアの協力を得て資料の保管状況を改善しました。	B

普及啓発事業	**「横浜の遺跡展」の観覧者数は目標の 140%を超え、講演会参加者も目標の 235%に達する**など大変盛況でした。**新規事業として地域歴史散策を２回開催しました。**図書館と協力して、出土品・写真パネルの展示や講演会等を実施しました。また、体験学習の出前開催や講師派遣等普及啓発に努めました。	S
発掘調査事業	年度当初に受託予定がなかった発掘調査事業は、本発掘調査１件・確認調査２件、整理報告事業１件を受託し実施しました。そのほか、市教育委員会の測量調査に協力しました。	A
施設連携事業	ふるさと横浜探検を歴史博物館と共催して実施しました。	B
施設維持事業	埋蔵文化財センターの施設維持管理を適切に実施しました。図書室空調設備の設置等を実施しました。	B

Ⅱ　市史資料室事業

財団では横浜市総務局法制課の委託を受け、総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料（昭和期の市政に関する資料や、横浜の歴史・文化、また市民の生活に関する資料など、昭和の横浜を記録した資料）の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。さらに、今年度は占領期のアメリカ軍施設および当時撮影された写真に関する調査研究を行いました。

公開普及事業では、開港や都発と会期をあわせて関東大震災に関する展示を開催し、１万人以上の入場者がありました。また、展示の開催にあたっては開港・都発の職員と一体的に調査・研究・広報を行いました。所蔵資料の活用としては、市史所蔵資料・写真を、企業・団体・学校等に貸出し、開港資料館・都市発展記念館をはじめ、市内博物館・図書館等に展示資料を提供しました。また、従来から実施してきた開港・都発との共同研究事業も順調に行い、成果を各施設で公開していくことになっています。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）資料の収集・管理・公開

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈	寄贈　32 件　600 点	主な収集資料：小泉久光家資料、震災被災写真、横浜ペンクラブ関係資料、『有隣』合本、公田町団地自治会報、焼夷弾、B29 搭乗員関係資料、山根哲家前川写真館関係写真、日高帝氏関係資料ほかの寄贈を受けた。
図書・刊行物	5,893 点	図書（747 冊）・行政刊行物（5,146 冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	5 件　1,599 点	移管資料：横浜博覧会関係資料、社会福祉法人認可関係資料、初黄・日ノ出町地区まちづくり関係文書、上海友好関係文書、公園整備事業関連図面等の移管を受けた。
資料の購入	5 件　19 点	主な資料：横浜市電花電車写真（15 枚）、米軍住宅根岸地区工事、都市モノレール等調査報告書、アルバム「神奈川区出身凱旋軍人歓迎会」「日本貿易博覧会記念写真帳」
資料のマイクロ化等	マイクロフィルム 124,856 コマ プリント　23,410 枚 写真等複製　479 枚	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影するとともに、一部の資料については、プリント製本を作製した。 主な資料：元街小学校資料、飛鳥田一雄資料、横浜弁護士会資料、海老塚明家資料、横浜市漁業協同組合芝支所資料など

		そのほか、写真資料の複写・スキャニングによるデータ化（379 枚）、および旧公図のスキャニング・プリントによる複製作成を行った（100 枚）。 （横浜市総務局法制課予算にて執行）
資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、及び一部資料について公開に向け、再整理を行った。また、中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。 閲覧室に目録棚を設置し、公開資料の目録を準備の整ったものから順次配架した。 資料を適切に管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索用目録の処理を行った。 所蔵資料・新規受入資料の公開に向けて、資料整理、目録化、資料のマイクロ撮影、複製の作成を順次行い、写真資料のデータベース化を進めた。
資料公開	入室者数　1,119 人	資料閲覧・複写・レファレンス対応等を行った。
資料貸出	貸出件数　233 件	出版物掲載（60 件）、放映等利用（26 件）、展示出陳（47 件）、複写（45 件）、その他授業で使用、HP 掲載など（55 件）のために写真、パネル及び資料の貸出を行った。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）調査研究

項　　目	事　業　内　容
資料調査	報告書刊行準備として、占領期の米軍施設及び当時撮影された写真の調査研究を行った。 『市史通信』等で紹介するため、中区火災保険図、東京オリンピック関係資料等の資料調査を行った。
展示会等の関連調査研究	震災展時会開催に合わせて、震災関係画像の所在状況および内容に関する調査研究を行った。
共同調査研究	開港資料館・都市発展記念館と共同で実施。市史資料室所蔵資料に含まれる地図の確認とデータベースへの登録作業を行った。 都市発展記念館・開港資料館との連携研究事業に関し、定例会を開催し、高度経済成長期に関する所蔵資料の調査を行い、公田町団地および元日吉団地住民の調査を実施した。

３　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）閲覧室運営

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
展示見学者（人）（注１）**目標数 10,000 人**	９，８６９	９，９１６	１０，６２０
入室者数（人）**目標数 1,200 人**	１１１９	９５５	９６３
資料閲覧室利用者数（人）（注２）	１５３	１４０	１６３
複写申込件数（件）	３７９	３１５	３３１
レファレンス件数（注３）**目標数 150 件**	２２４	１６４	１４０
電話レファレンス件数（注４）**目標数 300 件**	２９８	３１７	３０５

（注１）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注２）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注３）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

（注４）メールレファレンス含む

（２）展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
展示会の開催	「レンズがとらえた震災復興 1923～1929」横浜市中央図書館・地下１階ホール 平成２５年７月１３日（土）～１０月１４日（月・祝） **入場者数：１１，９８９名** 震災で廃墟と化した横浜がわずか５年余りで復興を遂げていく様子を、前川謙三という写真家が撮影した写真約 70 枚で紹介 展示記念講演会「関東大震災の災害教訓－東京・横浜の比較から－」 平成２５年９月１日　　参加者：１５１人
横浜市史資料室内展示コーナー（ミニ展示）	展示ケースで、ミニ展示「モダン横浜のマッチラベル」、「レンズがとらえた震災復興 1923～1929」関連展示、「声楽家佐藤美子 誕生から昭和 20 年まで～所蔵資料紹介～」を行った。

（３）情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』(No. 17～No. 19）を刊行（No. 17・18 各 5,000 部、No. 19 8000 部）した。資料提供者（機関）、及び関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容の PDF ファイルをホームページ上でも公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第 4 号（1,000 部）を刊行した。 今回は、関東大震災九〇周年「関東大震災の災害教訓－東京・横浜の比較検討から－」を特集とした。
報告書『占領軍のいた街』刊行	平成 24 年度の写真パネル展「占領軍のいた街」の内容を一書にまとめ、報告書『占領軍のいた街－戦後横浜の出発』として刊行した（2,000 部)。
その他促進事業	・横浜大空襲関連展示、市内小中学校の授業利用（平和学習）のため、写真パネル・資料を貸し出し。

	・関東大震災 90 周年に関連して、宮内庁・みなと博物館・神奈川消防署・西消防署・神奈川学園等に展示出陳。 ・関東大震災関連の出張授業（日枝小学校） ・上菅田中学校平和授業 ・フェリス女学院大学横浜学学外授業受入 ・市職員研修会：市史資料室紹介と震災展の解説（9/27）
ホームページの公開	ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った。（横浜市総務局法制課で作成・随時更新） アクセス件数：約 9,474 件
広報宣伝活動	・展示会「レンズがとらえた震災復興 1923～1929」の案内チラシ・ポスターを作成・配布。 ・6/19 市長定例記者会見で、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室で連携し同時開催する関東大震災展示会について発表。7/20 読売新聞掲載。 ・京急品川駅に関東大震災展示会の開港資料館・都市発展記念館・市史資料室共通ポスターを掲示。 ・ミニ展示「声楽家佐藤美子」のチラシを日本オペラ振興会・東京藝術大学・県内音楽大学等へ送付した他、「フォトヨコハマ 2014」にパートナーイベントとしてエントリー ・財団メールマガジンによる情報発信。 ・レファレンス対応および取材対応。（『神奈川新聞』シリーズ「関東大震災 90 年　未曾有に学ぶ」、『産経新聞』連載「横浜と占領」等）
その他	①　学芸員課程学生の施設見学・案内受入（7/23、早稲田大学 4 名） ②　講師派遣 ・横浜市立大学総合講義「横浜学事始」 ・本牧地区センター横浜アーカイブス ・鶴見歴史の会 ・東京都慰霊堂（首都防災ウィーク） ・開港資料館震災展関連講座 ・旭区白根第 9 自治会講座 ・防災塾だるま講演会 ・シティーガイド南区街歩き ・緑図書館展示解説 ・戸塚区民活動センター（とつかカレッジ） ・かながわコミュニティーカレッジ ・青葉区郷土史の会 ・新潟大学災害復興科学研究所シンポジウム ・港中学校　など ③　地域図書館展示協力

	・保土ケ谷･南･中・山内・港南各図書館

事業別評価

	実施概要	評価
市史資料室事業	横浜市の委託事業は順調に実施しました。開港・都発と共同で実施した関東大震災に関する展示はマスコミに大きく取り上げられました。今後も３施設共同事業の充実をはかり、市史資料室の活性化に結びつけていきます。	A

Ⅲ　史跡等管理事業

１　八聖殿郷土資料館事業（定款第４条第１項第１号②・③）

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

項　目	事 業 内 容
歴史講座の実施	収蔵資料や地域の歴史を普及するための事業として、偶数月には連続講座「本牧・根岸発１６・１７世紀の地域と国家」を、奇数月には特別講座として毎回異なるテーマによる講座を開催した。 毎月第３土曜日　参加料：２００円　参加者：計５２２人
歴史散歩の実施	上記連続講座の一環として、連続講座で話題にした地域へ赴く歴史散歩を実施した。 ４回開催　参加料：２００円　参加者：計２１１人 第１回：海辺の地・蒔田湊周辺を歩く－蒔田湊の可能性と吉良氏の存在を探る－ 開催日・参加者　10/17（木）55 人・10/19（土）48 人　計１０３人 第２回：鎖国下の杉田・富岡周辺を歩く－東京湾の海辺の暮らし－ 開催日・参加者　2/20（木）59 人・3/27（土）49 人　計１０８人
地域との連携	地域で開催する事業への参加依頼を受け、次の体験等を実施した。 （１）９／２１（土）本牧大里町主催「さんま祭り」　参加者：１６０人 ・忌火体験（舞錐式火起こし体験）　・草玩具作り体験 ・ゲルマニウムラジオ視聴体験　・「昔なつかしい本牧の写真」展 （２）１０／９（水）本牧和田地域ケアプラザ主催 高齢者と本牧中学生との世代間交流会 当館に展示されている写真や資料を活用した「タイムトリップクイズ」を実施。　参加者：４６人 （３）町内会の依頼を受け、「タイムトリップクイズ」を地域町内会でも実施した。 １０／１０（木）本牧三之谷町内会主催　茶話会　参加者：２５人 １１／１２（火）本牧元町南町内会主催　サロン会参加者：３６人 （４）市民地域活動団体『里山あそび』からの依頼を受け、当館体験資料の石臼できな粉を作る体験を実施した。　参加者：３２人 （５）町内会の依頼を受け、『元気な本牧根岸まちづくりの会』主催事業の本牧・根岸地域歴史散歩の実施について、事前講習会用の歴史ＶＴＲ編集や実施に協力した。 （６）本牧山頂公園（横浜市指定管理者）から本牧山頂公園内レストハウスで行う写真パネル展で当館展示パネルを使用したいとの申し出があり、複製データの貸出を行った。
学校との連携	地域小中学校の依頼を受け、体験学習会や、学校出前授業を実施した。 （１）小学校３年生　校外学習「昔の生活・道具に触れてみよう体験」 年間４校　参加者：計３９４人

	（２）小学校３年生　出前授業「昔の生活・道具調べ学習」 年間３校　参加者：計２７７人 （３）小学校４年生　出前授業「吉田新田の成立から現在まで」 年間１校　参加者：計８９人 （４）小学校５年生　出前授業「足踏み式脱穀機での脱穀体験」他 年間１校　参加者：計１０４人 （５）大鳥中学校ＰＴＡ主催　第１０回大鳥中学校交遊祭への参加 １０／２６（土）　参加者：１００人超 ・草玩具作り体験　　・昔なつかしい本牧の写真（パネル展示） （６）本牧中学校１年生　来館・体験 １１／　７（木）「郷土・本牧の歴史」　参加者：１５９人
夏休み工作体験	希望者に対して、草玩具や雑草コースター・ハエ取りトラップ作りや、わら草履作りの指導を行った。（随時）　参加費：無料
情報発信	ホームページ及びブログ等により、八聖殿郷土資料館の展示・普及事業等の情報を発信した。また、三渓園および近隣の店舗に、ポスターの掲示、チラシの配布を行った。

（４）八聖殿郷土資料館利用者の推移（**目標数 6,000 人**）

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
八聖殿郷土資料館利用者数（人）	８，８８７	６，０９０	６，０５４

２　史跡管理事業（**定款第４条第１項第１号③**）

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡等管理事業	八聖殿郷土資料館では、利用者数は目標数の 1.5 倍程度となりました。歴史講座を中心に地域連携事業など、さまざまな事業をおこないました。 また、史跡の維持については順調に管理を行いました。	A

Ⅳ　歴史博物館事業

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、修繕・燻蒸等は着実に実施しました。しかしながら、歴史収蔵庫において虫害資料が発見されたため、収蔵庫の燻蒸を実施すると共に、今後の日常的な収蔵と燻蒸の関係を再検討し、対応策を策定しました。調査研究事業は７本を行い、その成果は講座、企画展の開催に活用しました。

企画普及事業では、展覧会を６回開催すると共に、学校団体による利用促進のための月曜日開館、**子ども向けにも配慮した年中行事の展示、**小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。市民協働では、地元の郷土史の会との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動とともに、活動支援ボランティアも着実に活動を積み重ねました。**また、環境創造局のみどりアップ事業と連携したワークショップを実施し、都筑民家園と協働して歴史博物館・民家園・遺跡公園を利用した都筑遺跡公園民家園アート月間を昨年度に引き続き開催しました。博物館の講座ＯＢ会の４団体がそれぞれの活動を行うと共に、博物館の支援、博物館との協働を目的に作られた「博物館もりあげ隊」が活動を展開しました。7 月には、全国歴史民俗系博物館連絡協議会の年次集会を当館で開催しました。**

また、文化芸術振興費補助金「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に応募した「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」が採択され、当館を中核館として実行委員会を作り、小学校が所蔵する資料の調査・整理などを実施しました。

施設の管理運営面では、経年劣化の機器類の恒常的な保守を行い、野外施設では劣化した竪穴住居と高床式倉庫、案内板等の修繕を行いました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・来館者満足度が向上し、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（１）資料の収集・管理

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈 16 件　15,925 点 寄託０件　０点	主な収集資料：佐久間象山漢詩掛軸、新田吏員派出所看板、地神講掛軸、行李・たらいなど生活雑貨、和文タイプライター、念仏講関係資料ほか
実物資料の購入	９件２３点	主な収集資料：関東名所図会 相模大山良弁之瀧、合戦浮世絵貼込、上杉房定書下、佐久間象山書簡、寛永版古事記、鎌倉北条九代記ほか

レプリカ製作	２件２点	主な資料：三殿台遺跡出土縄文時代後期注口土器、豊嶋宮城文書
マイクロ撮影	4,200 コマ(製本 44 冊)	主な資料：金沢藩士萩原家文書・松澤家文書（製本のみ）
資料の修繕・保存	３件　３点	主な資料：地神講掛軸、赤羽刀、古梅谷遺跡出土木製品の修復
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	２，８７６件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	３件１５点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	３７６５件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数　９８０カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数５９件１１６点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（H24.4～H25.3）

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵　画（点）	2 （6）	— (—)	— (—)	— (—)	2 （6）	１，９４４ （１，９４２）
工芸品（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	１３２ （１３２）
彫　刻（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	２０ （２０）
書　跡（点）	— (—)	— (—)	2 (—)	— (—)	2 (—)	５１ （４９）
典　籍（点）	１８ （７６）	— (—)	— (—)	— (—)	１８ （７６）	４，０８３ （４，０６５）
古文書（点）	2 （4）	1 (—)	— (—)	— (—)	3 （7）	３１，１８２ （３１，１７９）
古記録（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	３９ （３９）
絵　図（点）	1 （2）	— (—)	— (—)	— (—)	1 （2）	１６９ （１６８）
歴史資料（点）	— （２８）	— (—)	７９ （２，７８７）	— (—)	７９ （２，８１５）	１６，６２３ （１６，５４４）
考古資料（点）	— (—)	1 （6）	１５,４９５ （6）	— (—)	１５,４９６ （１２）	１６,８７５ （１，３７９）
民俗資料（点）	— (—)	— (—)	３４９ （１４２）	— (—)	３４９ （１４２）	９，７３８ （９，３８９）
図書文献資料（点）	２６４ （２７９）	— (—)	２,２１１ （１，６２１）	— (—)	２，４７５ （１，９００）	６２，７３７ （６０，２６２）
合　　計	２８７ （３９８）	2 （6）	１８,１３６ （４,５５６）	— (—)	１８,４２５ （４,９５０）	１４３，５９３ （１２５，１６８）

※（　）内は、前年度点数。

購入資料　佐久間象山書簡

寄贈資料　地神講掛軸（左）
新田吏員派出所看板（右）

（３）図書閲覧室利用状況

項　　目	平成２５年	平成２４年	平成２３年
閲覧室利用者数（人）	７，４７１	６，３９４	７，６４６
複写申込件数（件）	５０４	５６０	４６８
複　写　枚　数（枚）	４，８１２	５，０２０	４，４６９
レファレンス件数（件）	４００	５５０	５８２

（４）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
文化財害虫への対応	8/29（木）に５階歴史収蔵庫内で文化財害虫による被害を確認。発生源の資料を隔離し、8/30～9/20 燻蒸庫にて燻蒸を実施。また、収蔵庫内の害虫飛散を想定し、9/30～10/3、４～６階の収蔵庫全体の薫蒸を実施した。収蔵庫から出した資料は目視のみならず、必ず燻蒸をして戻すという対応策を講じ、実施に移した。
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

（５）資料保管施設の管理

保管施設	保　管　資　料
歴史博物館収蔵庫（1,901 ㎡）	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

収集資料の整理や調査研究、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

（１）基礎的調査研究１：収蔵資料に関する調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
縄文時代後期の漁具の研究 （３／３年次）	市域出土の縄文時代後期の漁具・動物遺存体を分析することにより、当時の漁労活動の実態を明らかにする。市域の貝塚出土資料の観察と図化を行い、考察を行った。
佐久間象山資料の研究 （３／３年次）	当館所蔵「熊倉家伝来　佐久間象山関係資料」を分析し、佐久間象山と横浜開港の関係を再検討する。明治期の政治家、実業家、文化人等の人名を書き上げた資料を分析、横浜での象山の顕彰運動との関連を指摘し、象山と横浜との関係を考えた。
横浜市所蔵街頭紙芝居の研究 （２／３年次）	当館所蔵該当紙芝居を活用するため、複製を毎月６巻制作し、ラストサタデープログラムで実演した。他施設所蔵街頭紙芝居の調査、一誠会関係者への聞き取り調査を行った。

（２）基礎的調査研究２：地域資料に関する調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
埴輪の生産体制と地域社会の研究 （３／３年次）	横浜市域出土の埴輪の事例から、生産・供給体制の分析を通じて地域間ネットワークの様相を検討する。出土状況や関連情報の収集・未発表資料の図化を行い、出土事例の集成表を作成した。
久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏の研究 （２／３年次）	久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏：室町・戦国時代、南区蒔田を拠点とした吉良氏・蒔田氏の資料を収集・検討することにより、その実態を明らかにする。本年度は武蔵吉良氏にかかわる先行研究の文献を収集し、武蔵吉良氏の発給文書のみをリスト化、古文書の所在確認を行った。
横浜市域の産育習俗にかんする民間信仰の調査研究 （１／３年）	青葉区鉄町志村家で資料保管状況下見を行い、調査研究内容の説明と資料借用を行った。８月から資料整理と文献収集を行った。その結果、対象資料群が 1,145 点であることが判明した。

（３）市民協働の調査研究：フィールド調査を基礎として、市民とともに調査研究を行う

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
市民協働民俗調査 （３／３年次）	相模原市立博物館が組織している民俗調査の市民団体との交流会を実施した。源流域の再訪や石造物の石材同定フィールドワークを実施した。打ち合わせでは今年度の計画を話し合い、各自のテーマについて報告を行った。

（４）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	２６年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。

「人と物の流れ」に関する調査研究	２６年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	２６年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

（５）資料の調査整理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料･データなどの整理を行った。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施しました。

（１）常設展示室での実施事業

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：223 名（１日２回：全 24 回）
収蔵資料ミニ展示	７・８・９月と１・２・３月の６回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：70 人（１日２回（8 月は 2 日）：全 14 回）

（２）常設展示室観覧者の推移（**目標数 79,500 人**）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1 日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
25 年度	10,925	1,066	10,502	22,493	49,848	72,341	105.7%	305 日	237
24 年度	10,710	1,064	10,663	22,437	46,020	68,457	92.4%	310 日	221
23 年度	10,767	1,239	12,056	24,062	50,038	74,100	105.1%	311 日	238

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

本年度も昨年度に引き続き、環境創造局のみどりアップ「森の収穫体験事業」と連携し、ふるさと横浜探検「恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて」、体験学習「縄文顔を粘土でつくろう」・「縄文時代の土偶」・「ぞうり編み」・「和凧」・「紙すき」・「横浜の土偶」、竪穴住居に泊まろう、実験考古学講座「縄文土器づくり」、企画展「昔のくらしと年中行事」の開催前のプレイベントとして「博物館ＤＥどんど焼き」を実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図　及び　内容・成果
特別展「N.G.マンローと日本考古学」 H25.4.6（土） ～5.26（日） 会期 48 日	大人 400 円 大高 300 円 小中 100 円	**20,100 人** **（目標数** **25,000 人）** 1日あたり 418 人	横浜の考古学の先駆者であるスコットランド出身の考古学者・医師 N.G.マンローの業績に注目した。展示の冒頭では主に明治時代初期に活躍した外国人研究者の業績を取り上げ、マンローの誕生から横浜在住期間までの足跡を紹介した上で、三ッ沢貝塚におけるマンローの考古学的調査の成果を紹介した。国立スコットランド博物館所蔵資料を撮影・パネル展示した点は、今回の展示の特筆すべき成果だと言えよう。東京大学総合研究博物館の三ッ沢貝塚出土人骨は、東大以外では初の公開となった。マンローが暮らした明治後半～大正時代の横浜旧居留地での生活については、発掘資料と着色写真によって示した。三ッ沢貝塚の発掘以降のマンローについても扱った。このほか、国立歴史民俗博物館が作成したマンローの映画フィルムについてのドキュメンタリー『Ainu past and present』の冒頭部分12分間を会場内で常時上映した。また展示に関連して、下記の事業を実施した。 ① フロアレクチャー３日６回　参加者８０人 ② 親子向けフロアレクチャー４日４回参加者９５人 ③ 研究講座　参加費：200 円 ４／１３（土）「スコットランドのマンロー資料」 参加者１９人 ４／２７（土）「マンローの頃の横浜」 参加者２３人 ５／１１（土）「Prehistric Japan を読む」 参加者２７人 ④ 遺跡散歩「横浜にマンローの足跡を訪ねて」 ４／２４（水）　参加費：各 200 円 午前「三ツ沢貝塚周辺を歩く」参加者３２人 午後「横浜旧居留地を歩く」参加者２３人 ⑤ 講演会「N.G.マンローと日本考古学」 参加費：500 円　参加者：114 人 ・「日本考古学史におけるマンロー」 講師：岡本孝之（神奈川県考古学会会長） ・「三ツ沢貝塚の実像」 講師：中村若枝（神奈川県考古学会副会長） ・「箱根と軽井沢での満郎」

			講師：坂本彰（(株) ｱｰｸ・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸｼｽﾃﾑ) ⑥　バスツアー「軽井沢にマンローの足跡を訪ねて」 ５／２２（水）　参加費：3500 円　参加者３７人 ⑦ 図録等刊行物の作成　２，０００部作成 定価１，０００円、売上４０２部 ⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
収蔵資料展「博物館コレクション 絵巻でみる江戸時代」 H25.6.8（土） ～7.7（日） 会期 26 日	大人 200 円 大高 100 円 小中 50 円	**6,792 人** **（目標数 6,000 人）** 1 日あたり 261 人	当館が開館以来収集してきた、横浜の歴史にかかわるさまざまな資料の中から、江戸時代の絵巻物をとりあげる収蔵資料展を行った。テーマは一つに絞らず、さまざまな絵巻を展示し、そこから読み取れる江戸時代の生活や文化、事件などを紹介した。関連企画として絵巻鑑賞ミニ講座やフロアレクチャー、絵巻に触れる体験、ふるさと横浜探検（普及事業と合同）などを行った。また、社会科見学の小学生が来館する時期だったこともあり、小学生向けの解説パネルを設置した。 ① フロアレクチャー　３日６回　参加者１１５人 ② 絵巻に触れてみよう（体験学習） １０日間実施　参加者１４６人 ③ 絵巻鑑賞ミニ講座　参加費：200 円 解説：小林紀子（展示担当学芸員） 「武士の世界－大名行列絵巻・鷹狩絵巻－」 ６／２３（日）　参加者６３人 「庶民の世界－風俗絵巻－」 ７／６（土）　参加者８３人 ④ ふるさと横浜探検「東海道宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて」６／１２（水）　参加費：6000 円　参加者３３人 ⑤ 図録等刊行物の作成　１５００部作成 定価５００円、売上３８６部 ⑥ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
企画展 「水へのいのり 古代東国の川辺と井戸のまつり」 H25.7.27(土) ～9.23(月・祝) 会期 51 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	**4,401 人** **（目標数 7,000 人）** 1 日あたり 86 人	水はいつの時代も生命の糧であると同時に、ひとたび猛威をふるえば恐ろしい災害をもたらす存在でもある。日本近代水道発祥の地である横浜では、市内都筑区の古梅谷遺跡から、古代の水路とそこでおこなわれたまつりの痕跡がみつかっている。人々は遠い昔から水への願いやおそれを胸に、川辺や井戸などで神に捧げものをしたり、ケガレをはらうためのまつりをおこなってきた。この展覧会では、古墳時代から奈良・

			平安時代の東国の遺跡より出土した資料や文献を通して、古代の人々の水への信仰のありようを探った。 ①　フロアレクチャー　３日６回　参加者５８人 ② 親子向け展示解説　４日８回　参加者１６４人 ③ 講演会　参加費 500 円 ・「東アジアにおける洪水伝承の成立と展開」 講師：北條勝貴（上智大学准教授） ８／１７（土）　参加者６６人 ・「古墳時代豪族の治水と神まつり」 講師：若狭 徹（高崎市教育委員会） ９／１５（日）　参加者６６人 ④ 研究講座　参加料 200 円 講師：柳沼千枝（展示担当学芸員） ８／１０（土）「王の支配と水」参加者２９人 ９／８（日）「水神の化身」　参加者３８人 ⑤見学バスツアー「横浜の水源地・山梨県道志村を尋ねて」８/２３（金）　参加費4000円　参加者２５人 ⑥ 散策ツアー「横浜水源記念館を尋ねて」　参加費200円 ９／１０（火）　参加者１６人 ⑦ 図録等刊行物の作成　1500部作成 定価 800 円、売上 253 部 ⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
企画展 「横浜市立大学コレクション・古地図の世界－地球のかたちと万国の大地－」 H25.10.12(土) ～11.24(日) 会期 38 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	**5,055 人** **（目標数 7,000 人）** 1日あたり 133 人	この展覧会では、古地図をとおして江戸時代の人々が具体的に抱いていた世界・地域認識を知ることができると同時に、巨大な地球全図に収められた万国の姿、色彩豊かな大地の形から、作品としての美しさ、地理が次第に明確になる歴史的な過程を、古地図からたどることができることを示した。また、仏教天文学に関わる作品では、仏教が西洋天文学に出会うことによってそれまで伝統的に考えられていた仏教的世界をどのように解釈しようと試みたのか、その思考過程を紹介した。地理上の世界認識が、インドや須弥山を中心とする伝統的な世界から、欧米を含む現在的な地理へと大きく変容した時代に思いを馳せることのできる内容とした。 ① フロアレクチャー　６日６回　参加者１００人 ② 特別講演会　参加料：５００円 「遥かなる大地－世界図の表現をめぐって－」 １１／１６（土）　講師：金田章裕（人間文化研究

			機構・機構長）　参加者８８人 ③ 研究講座　　参加料：３００円 ・「横浜市立大学古地図コレクションについて」 講師：松本郁代（横浜市立大学准教授） １０／１３（日）　参加者２９人 ・「地図の中の歴史～絵地図と測量図～」 講師：山田俊治（横浜市立大学教授） １０／１９（土）　参加者１２人 ・「デジタルアーカイブと“地図”」 講師：赤間亮（立命館大学教授） １０／２７（日）　参加者９人 ・「地図の文化史～江戸時代の世界観と社会～」 講師：上杉和央（京都府立大学准教授） １１／２（土）　参加者３４人 ・「地図の近代化と領域国家の形成～タイの事例から」 講師：柿崎一郎（横浜市立大学准教授） １１／９（土）　参加者１４人 ④ ミニ講座「絵図の見方・読み方 etc.」 参加費無料 講師：斎藤司（展示担当学芸員） ６回　参加者１９０人 ⑤ 図録等刊行物の作成 図録 2000 部作成　定価 800 円、売上 704 部 ⑥ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
企画展「市指定文化財の“はにわ”たち」「横浜の遺跡展－古代都筑郡の考古学」 H24.12.7(土) ～H25.1.12(月・祝) 会期 26 日	無料	**4,295 人** **（目標数 3,700 人）** 1日あたり 165 人	横浜市指定文化財である上矢部町富士山古墳（戸塚区）・北門１号墳（緑区）出土埴輪を紹介すると共に、綱島古墳（港北区）・日吉矢上古墳（港北区）・三保杉沢古墳（緑区）から出土した埴輪も合わせて展示した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展　古代都筑郡の考古学－北川谷遺跡群から「郷」を考える－」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。 ① フロアレクチャー　２日３回　参加８８人
企画展 「むかしのくらしと年中行事」 H25.1.25(土)～ 3.23(火・祝) 会期 50 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	**15,960 人** **（目標数 7,000 人）** 1日あたり 319 人	本展覧会では、一年の中で今でも見られるものや既に見られなくなったものなど、ちょっと昔の横浜で見られた年中行事を通して、人々のくらしを紹介した。 ① 講演会　　参加料：５００円 「江戸時代の日記に見る年中行事」 講師：井上攻（横浜ユーラシア文化館副館長） ２／９（日）　参加者３９人

			「盆と正月を中心とした神奈川の年中行事」 講師：長田平（元神奈川県立歴史博物館学芸員） ３／９（日）　参加者３９人 ② 研究ミニ講座　参加料２００円 第１回「横浜の年中行事概観」講師：展示担当学芸員 ２／１９（水）　参加者１６人 第２回「日本の盆行事について」 講師：関悦子（荒川ふるさと文化館） ２／２６（水）　参加者１２人 第３回「家の行事・地域の行事」講師：担当学芸員 ３/５（水）　参加者１６人 ③ プレイベント「博物館 DE どんど焼き」 １／１２（日）　参加者３８人 ④ フロアレクチャー　２日４回　参加者４３人 ⑤親子向けフロアレクチャー４日８回 参加者９３人 ⑥ みんなでつくる写真展「わたしがみつけた横浜の年中行事」　出展数１１０点 ⑦ 図録等刊行物の作成　大人向 1500 部、子ども向 3000 冊作成 定価 大人向 800、子ども向 300 円、売上 大人向 253 部、子ども向 381 部 ⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）

（２）企画展示室観覧者の推移（**目標数 56,000 人**）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開催日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
25 年度	7,385	587	2,848	10,820	45,783	**56,603**	97.6%	239 日	236
24 年度	8,496	594	5,758	14,848	43,099	57,947	107.4%	239 日	242
23 年度	6,228	482	2,449	9,159	44,781	53,940	102.9%	246 日	219

企画展「N.G.マンローと日本考古学」」講演会

収蔵資料展「絵巻でみる江戸時代」展示会場

「市指定文化財のはにわたち」展示状況

企画展「昔のくらしと年中行事」
親子向けフロアレクチャー

（３）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事　業　内　容
古文書解読教室 初めての古文書 H25.10.4(金) ～12.6(金) 毎金曜　10 回連続	各回 ３８人 （目標数 40 人） 合計 ３８０人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：斉藤司、小林紀子 会場：歴史博物館　研修室 参加料：５，０００円
中世史講座 H25.11.20(水) ～12.4(水) 毎水曜　３回連続	各回 ２５人 （目標数 ３０人） 合計 ７５人	「鎌倉幕府御家人 平子氏」をテーマとし、①武士の伝えた古文書②合戦の戦功と恩賞の古文書③所領支配の動揺というタイトルで実施した。 講師：阿諏訪青美 会場：歴史博物館　研修室 参加料：１，５００円
民俗学講座 H25.11.20(水) ～12.4(水) 毎水曜　３回連続	各回 １７人 （目標数 ３０人） 合計 ５１人	①民具と民俗②横浜の年中行事いろいろ③横浜の民家というタイトルで３回実施した。 講師：刈田均、羽毛田智幸 会場：歴史博物館　研修室 参加料：１，５００円
近世史講座 H26.1.15(水) ～2.12(水) 毎水曜　５回連続	各回 ３５人 （目標数 ４０人） 合計 １７５人	「神奈川浦と野毛浦～二つの入江・入海の江戸時代～」をテーマに５週連続で実施した。 講師：斉藤司 会場：歴史博物館　研修室 参加料：２，５００円
古代史講座 H26.1.15(水) ～2.12(水) 毎水曜　５回連続	**各回** **６２人** **（目標数** **４０人）** 合計 ３１０人	「古事記と日本書紀」、「律令」、「木簡」などをテーマに５回連続で実施した。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館　講堂 参加料：２，５００円

実験考古学講座 「縄文土器づくり」 H25.2.1(土) ～3.15(土) 全４回	**各回** **２０人** **（目標数** **２０人）** 合計 ８０人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。 会場：歴史博物館　工房・野外広場 参加料：３，５００円
開館 19 周年記念 特別講演会 H26.1.25(土)	**１４２人** **（目標数** **１５０人）**	開館１９周年を記念して「縄文人の生活と知恵－横浜の遺跡を中心に」と題する特別講演会を行った。 講師：今村啓爾　（帝京大学教授、東京大学名誉教授） 会場：歴史博物館　講堂
講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ 56 回。

（４）体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事　業　内　容
体験学習室 毎日開催	**61,663 人** **（目標数** **60,000 人）**	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。 常時開催：銅鐸鳴らし、駕籠、火打石、鎧と兜等 ミニ展示 ・小学生見学対応プログラム ４／５（金）～７／１１（木） ・ちょっと昔を探してみよう－不思議なかたちの道具たち ７／１１（木）～９／１９（木） ・江戸の旅・明治の旅 ９／２０（金）～１１／２８（木） ・ちょっと昔を探してみよう １１／２９（金）～４／３（木）
体験コーナー H25.4 月 ～H25.6 月	29,457 人	無料	小学校団体が多い４～６月にかけて、エントランスホールで火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 8/9 を除き午前午後の １日２回開催 （年度通算 21 日 41 回）	898 人	300 円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 4/14（日）：小さな弥生土器 58 人 6/22（土）・23（日）：小田原ちょうちん 95 人 7/15（月・祝）：繭細工　34 人 7/21（日）：竹の風車　42 人 7/28（日）・31（水）：縄文顔　94 人 8/9（金）・10（土）：万祝染　74 人 8/14（水）：縄文ポシェット　63 人

			8/22（木）・23（金）：勾玉づくり　135 人 10/6（土）・7（日）：縄文時代の土偶　54 人 11/23（土）・24（日）：ぞうり編み　79 人 12/14（土）・15（日）：和凧作り　78 人 2/8（土）・9（日）：紙すき　45 人 2/16（日）：横浜の土偶　47 人
大人の体験学習	12 人（目標数１０人）	1,200 円	６/１６（日）：あじろ編みでバッグを作ろう、
あじろ編み ワークショップ	27 人	350 円	４/２９（月・祝）　参加者２７人 １/２６（日）参加費：100 円　参加者１００人
竪穴住居に泊まろう H25. ９.14(土) ～9.15(日)	**８家族 28 人** **（目標数８家族）**	本年度のみ 大人 700 円、子供 300 円	小学生とその親を対象に遺跡の竪穴住居に宿泊する体験教室。本年は台風接近のため宿泊を中止し、火起こし・竪穴住居での食事・夜の遺跡見学及びナイトミュージアムを実施した。
勾玉ワークショップ H25.7.6（土）	２６人	700 円	聖セシリア女子中学高等学校に協力し、課外授業の一環として勾玉作りのワークショップを開催した。
勾玉ワークショップ H25.11.27（水）	４人	500 円	横浜市聾支援学校の生徒を対象に、勾玉作りのワークショップを開催した。
出張ワークショップ H26.3.9（日）	60 人	500 円	都筑地区センターに出張し、勾玉作りのワークショップを実施した。
体験広場野焼き	**1,230 人** **（目標数 800 人）**	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 5/5（日祝）、8/24（土）、11/2（土）※雨天のため 10/26 から延期、3/15（土）

体験学習　小田原ちょうちん

体験学習　勾玉づくり

（５）「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事　業　内　容
常設展示室 企画展示室 博物館ﾊﾞｯｸﾔｰﾄﾞ	H25.8.4、11、18、25（日） １日２回	**１６４人** **（目標数 160 人）**	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学など.

（６）「ふるさと横浜探検」の実施（**目標数 30～35 人／回**）

探訪地	開催日	参加者数	事　業　内　容
横浜こと始め	H25.5.15 （水）	24 人	「横浜事始め　-馬車道から久保山へ-」と題し、関内地区から野毛山貯水池、久保山を通り、西横浜駅までの散策を外部講師の案内で散策した。 講師：半澤正時 参加料：700 円
東海道バスツアー宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて	H25.6.12 （水）	33 人	収蔵資料展との共催で、静岡県の宇津ノ谷峠・丸子宿・薩埵峠を目的地とするバスツアーを実施した。 参加料：6,000 円（昼食含む）
恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて	H25.9.27 （金）	９人	横浜市域内陸部の原風景といえる「ヤト」の景観が残る緑区新治町と新治市民の森を外部講師の案内で自然観察をしながら散策した。 参加料：700 円
埋蔵文化財センターから鎌倉へ　-百八やぐら・覚園寺・永福寺跡を訪ねて-	H25.11.13 （水）	21 人	埋蔵文化財センターとの共催で、埋文センターの展示見学とセンターから鎌倉までのハイキングコースを散策しながら、沿道のやぐらや寺院跡を訪ねた。 参加料：700 円
鉢形城と比企の城郭を訪ねて	H25.9.27 （水）	42 人	中世城郭をテーマとし、国指定史跡である鉢形城、杉山城、松山城の比企 3 城を現地で専門家の解説を受けながら訪ねた。 参加料：3500 円

夏休み博物館たんけん隊

ふるさと横浜探検
宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて

（7）集客イベント等

項　　目	開催日	参加者数	事　業　内　容
子どもの日スペシャル大塚遺跡まつり	H25.5.5	2,031 人	大塚・歳勝土遺跡公園内で、火起こし体験（参加者：419 人）、弓矢で狩り体験（参加者：460 人）、古代米一口体験（参加者：255 人）、土器の野焼き（見学者：897 人）を行った。
都筑阪急 モザイクモール観覧車無料招待	H25.7.27（土） ～ 8.25（日）	455 件	都筑阪急とタイアップ。入館券の半券でモザイクモール観覧車に無料招待
チボリ兄弟舎紙芝居	H25.8.17（土） ・18（日）	196 人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
東京都市大学と連携したＡＲ実験	H25.8.17（土） ～21（日）	139 人	東京都市大学と連携したＡＲ（拡張現実）実験。タブレット端末を利用した、原始Ｉブースでのクイズイベント。
「関東大震災」展関連パネル展「東日本大震災における歴史資料の救援活動」	H25.8.1(木) ～10.14(祝)	18,849 人	開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の「関東大震災」展に関連して、東日本大震災における文化財レスキューに関するパネルをエントランスホールにて展示。
都筑遺跡公園民家園 アート月間	H25.10.10 （木）　～ 11.29（金）	2,672 人	・「１日楽しめる竹・TAKEイベント」（公園） １０／１４（月・祝）　参加者６１４人 ・写真展「遺跡公園開園17年、同い歳の風景」 （エントランスホール） １０／１９（土）～２７（日） 見学者２,０５８人
博物館感謝デー	H26.1.25 (土)～26(日)	**15,298 人**	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、時代衣装を装着した案内係、紙芝居、勾玉づくり、「昭和の横浜」ビデオの上映、土器復元パズル、鏡パズル、ショップフェアーを実施した。
ラストサタデ―プログラム	全３回	185 人	常設展示解説のほか、4,5,6 月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。
おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終 土曜日 （全１２回）	1,342 人	ラストサタデープログラムの一環として、当館所蔵の街頭紙芝居を活用し、実演を行った。
センター北まつり紙芝居	H26.3.23（日）	375 人	当館所蔵の街頭紙芝居を活用し、センター北まつり会場と当館内で実演を行った。
「子どもアドベンチャー2013」への参加	H25.8.20(火) （2 回）	64 人	市教育委員会主催の子ども向け夏休み企画「子に参加。絵巻物や考古資料の取り扱いを体験し、バックヤードの見学も行った。

大塚遺跡まつり　古代米一口体験

おもしろいぞ！紙芝居

大塚遺跡まつり　弓矢体験

エントランスホールコンサート

（８）エントランスホールコンサートの実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事　業　実　績　等
第２４回コンサート 「ヴァイオリン、チェロ、ピアノの華麗なる響き～名曲コンサート」 H25.7.14(日)	演奏者：ヴァイオリン／硲美穂子、チェロ／津留崎直紀、 ピアノ／田口千晴 来場者数：400 人
第２５回コンサート 「クリスマスほっとコンサート 聖なる響きをフルートとともに」 H25.12.22(日)	演奏者：フルート／冨田朗子、ヴァイオリン／渡辺真帆子、 ヴァイオリン／末廣紗弓、ビオラ／堀江冬子、チェロ／元吉元子、 コントラバス／元吉寿夫、パーカッション／富田真由香 来場者数：301 人

（９）ボランティアの活動支援

項　　目	事　業　内　容
ボランティア事業	・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ①　ガイド登録者数：71 人 ②登録期間　　２年間（但し、希望者は２年間延長更新可） ③基本ガイド時間　小学校団体　45 分間 一　般　　60 分間

	・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ① 登録者数：42 人 ② 活動実績 ４～６月学校団体対応火起こし疑似体験活動 ラストサタデ―プログラム体験イベント 勾玉教室、区民まつり、センター北まつり、感謝デー、 都市発展記念館・ユーラシア文化館企画展ワークショップおよびイベント 活動のべ人数 1,583 人
ガイドボランティア研修の実施	・館外研修会・研修講座等を開催した。

項目		平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
活動実績	ガイド実施日数（日）	３０５	３１０	３１０
	解説回数(回)	１，１８９	１，３１１	１，２８５
	１日平均解説回数(回)	３．９０	４．１１	４．０５
	参加者数(人)	２７，５１６	２６，９８０	２９，０８３
	団体対応(件)	２８６	２９８	３２１
	団体のうち学校数(校)	２６２	２７２	２８９

遺跡ガイドボランティアの活動状況

活動支援ボランティアの活動状況
（あじろ編み体験）

(10) 学校連携事業の実施

学校利用を促進するために、エデュケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣４区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会 第１回 H25.6.29(土) 第２回 H25.8. 1(木) 第３回 H25.1.11(土)	① 横浜市小学校社会科研究会所属の教員５人及び関係職員で構成。歴史博物館ホームページ掲載資料の内容検討を行った。 ② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」検討。 ③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。

教材開発研究会 第１回 H25.6.22(土) 第２回 H25.9. 7(土) 第３回 H25.1.18(土)	① 横浜市立中学校教員５人、西部授業支援センター指導員１人、関係職員で構成。 ② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」の検討。 ③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。
教職員研修 H25. 8.2(金)午前と午後の部	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：午前　31 人　午後　15 人
教員５年研修 H25. 8.14(水)・22（木)・24（土)	市教育委員会が主催する教職員５年研修を受け入れて実施した。 参加人数：１人（市ヶ尾高校 ）
月曜開館	学校団体の来館が多い４・５月の月曜日に臨時開館し（４日間)、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 ８校　　774 人	９／２０（金)・２５（水）川和東小学校　６クラス　２２８人 １０／３（木）稲荷台小学校　２クラス　５０人 １０／２２（火）池上小学校　２クラス　７２人 １０／３１（木）日野小学校　２クラス　４２人 １１／１２（火）永谷小学校　３クラス　９４人 １１／２２（金）藤が丘小学校　３クラス　１０７人 １１／２８（木）高田東小学校　２クラス　　５８人 １２／１３（金）菊名小学校　　４クラス　１２３人
学校資料室への訪問授業 ５校　　632 人	１２／４（水)．５（木）森の台小学校　５クラス　１８６人 １／９（木）　　山下小学校　３クラス　　９３人 １／１６（木）　戸部小学校　２クラス　　４９人 １／２１（火）　川和東小学校 ５クラス　１８６人 １／２４（火）　勝田小学校　３クラス　１１８人
常設展示室　吉田新田説明 10 校　　949 人	９／１３（金）俣野小学校　１クラス　２４人 １０／４（金）勝田小学校　３クラス　１０２人 １０／１８（金）鴨志田緑小学校　２クラス　６２人 １０／２５（金）牛久保小学校　４クラス　１４２人 １０／２５（金）荏子田小学校　３クラス９５人 １１／６（水）霧ヶ丘小学校　４クラス　１２６人 １１／１９（火）山下みどり台小学校　２クラス　８１人 １２／１１（水）中川小学校　４クラス　１４３人 １２／１７（火）美しが丘東小学校　３クラス　９６人 １／１７（金）つづきの丘小学校　２クラス　７８人
その他出前授業 縄文土器づくり　出前授業 ４校　　369 人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 ６／２８（金)・７／１７（水)・１０/９（水） 下末吉小学校　児童２４人 ９/２５（水）／１０／２５（金)・１１／２２（金） 西富岡小学校　児童５１人

その他　訪問授業 １校　　35 人	１０／１６（水）　藤塚小学校　児童３９人 １２／１３（金）・１／１７（金）・２／２５（火） 三ツ沢小学校　児童３５人 その他　訪問授業 １０／２３（水）黒須田小学校　３５人（テーマ・古代の食事）
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 ８／３（金）２回　３９人、８／２３（金）２回　２６人
横浜市・各区研究会及び 関係団体への研修事業	玉川大学　寺本ゼミ歴史講座　5/11（土）15 人 神奈川区社会科研究会　5/15（水）40 人 戸塚区社会科研究会　5/15（水）35 人 学校コーディネーター教育支援見本市　6/8　(土)約 200 人 磯子区社会科研究会　6/12（水）20 人 横浜市社会科研究会「歴史ウォーク」8/1.3（水・土）98 人 緑区視聴覚研究会　1/29（水）35 人
県立高校日本史「郷土かながわ」 関連授業	県立横浜緑園総合高校　7/30　（火）生徒人参加　7人

縄文土器作り出前事業の様子

(11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。**当館主催の講座ＯＢ会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランテイアのＯＢ会である「横浜さいかちの会」の４団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、臨時講座の開催や出張授業や講座への協力なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に「横浜歴博もりあげ隊)」が結成され、活動しています。**

項　　目	事　業　内　容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月 2 回の講座の開催と、有志による「下読みの会」の実施。
「横浜縄文土器作りの会」との協働	・出張土器づくり教室（下末吉小・西富岡小・藤塚小・三ツ沢小）を実施した。 ・実験考古学講座「縄文土器づくり」(H25.2.3～3.16 全４回を実施した。 ・横浜縄文土器づくりの会作品展（H25.1.19～27）を開催した。 ・私たちがつくった縄文土器展（H25.3.17～24）を開催した。

「横浜さいかちの会」との協働	・夏季の史料購読講座の開催。 ・「日本書紀」を読む講座の開催。
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・連続古代史講座（4 回）の実施。 ・博物館感謝デーにおける常設展示室クイズラリー、中国編みワークショップの実施。 ・「博物館デビュー支援事業」の学校アンケートの整理の実施。

(12) 学校団体利用の推移（**目標数 500 校**）

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
学　　校　　数（校）	４２５	４３１	４８４

うち小・中学校利用数

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
学校数（校）	４０８	４０９	４３３
児童・生徒数（人）	３８，６２３	３９，２４８	４１，３０８

(13) 実習・研修の受け入れ

項　　目	事　業　内　容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 （A コース：分散型）　６名　９日間（５～11 月） （B コース：夏季集中型）　12 名　８日間（７～８月）
社会研修の受け入れ	生徒・学生・社会人の職場体験・研修等を受け入れた。 ５／２２（水）・２３（木）　市立中川西中学校　６人 ８／６～１０（火～土）　県立高校インターン　１９人 ９／１８（水）・１９（木）　市立川和中学校　８人 １１／２６～２８（火～木）　市立東山田中学校　１２人 １／１５（水）　市立中山中学校　４人 １／１６（木）　横浜国立大学付属中学校　１人 １／１７（水）　市立茅ヶ崎中学校　４人 １／１６（木）　市立中川中学校　３人 １／２９（水）・３０（木）　市立荏田南中学校　８人 ２／４（火）～１５（土）　フェリス女学院大学　１人

(14) 広報出版

項　　目	事　業　内　容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内（年２回） 通史展示解説シート
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース（２回）　各１３，０００部作成 横浜市歴史博物館資料目録　第２２集　７００部作成

	横浜市歴史博物館紀要　第１８号　　８００部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告　第１０号　　８００部作成
その他広報	市営地下鉄６駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 ＦＭ放送への情報提供 グランドミュージアム北部エリア会議参加 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数　　合計２，８７６件 ・インターネット公開 　収蔵資料情報の公開　　合計　５０件（前年度５０件） 　図書文献資料情報の公開　合計 2,936 件（前年度 2,027 件）
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理･発信やグループウエアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 **アクセス件数　合計 378,529 件（前年度 338,907　件）**
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館の展覧会、体験学習、講座・講演会などの様々な情報を発信した。

６　歴史博物館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（１）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸庫燻蒸・収蔵庫燻蒸の実施 スタディサロン・歴史劇場の運営

	講堂、研修室の貸出 主な修繕：**不活性ガスボンベの交換**、 加圧給水装置、同制御盤、空調レタンファン、パッケージエアコン、空調用温水・冷水ポンプ等 所在地：都筑区中川中央一丁目
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土（さいかちど）遺跡公園」の管理 主な修繕：**復元竪穴住居２棟及び高床倉庫の修繕。型取り遺構の修繕。レクチャー階段の修繕。復元木橋の修繕**。工房の修繕。入口広場説明板の修繕。竪穴住居漏水防止養生施工。 所在地：都筑区大棚西

（２）講堂・研修室利用の推移

項　　目		平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
講　堂	利用者数（人）	１７，９６０	２３，０２３	２３，６３６
	利用件数（件）	１８５	１７１	１５６
	うち有料貸出件数（件）	４１	３８	３２
研修室	利用者数（人）	６，８９４	７，３００	７，９６５
	利用件数（件）	２５４	２４２	２８１
	うち有料貸出件数（件）	１３７	１４９	１３８

（３）歴史博物館野外施設入場者の推移

項　　目		平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
歴史博物館野外施設（人）		５３，８６６	５６，４２８	５７，３３７
内　　訳	大塚遺跡（人）	４９，３１１	５０，４３５	５２，７２７
	工　　房（人）	４，５７５	５，９９３	４，６１０

７　学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業

公開承認施設である当館を中核館として、「博物館デビュー支援事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、（１）資料所在および授業活用状況調査事業、（２）校内歴史資料室を活用した授業案の事例検討・研修会開催事業、（３）街頭紙芝居による博物館体験促進と人材育成事業の３つの事業を実施した。

項　　目	事業内容
資料所在および授業活用状況調査事業	市内の小学校が所蔵する資料の現状を把握することを目的として実施。 １．市内 342 小学校が所蔵する資料の所在、管理保管状況等の調査の実施。 １）アンケート調査の実施：314 校より回答。整理･･検討。 ２）博物館を中核に調査団を組織し、資料の整理・目録化。 ・金沢区大道小学校所蔵資料の整理（237 点） ・都筑区川和小学校所蔵資料の整理（560 点）

	・港南区桜岡小学校所蔵資料の整理（150 点） ・緑区中山小学校所蔵資料の整理（496 点） ２．「校内資料室」のある学校の授業活用に関する状況の調査 １）アンケート調査の実施：対象校 78 校へ配布・回収。整理・検討。
校内歴史資料室を活用した授業案の事例検討・研修会開催事業	校内歴史資料室・所蔵資料を活用した授業のあり方を検討し、実践されている校内歴史資料室の事例や、所有資料の活用方法を、市内学校教諭に広く紹介し、教諭研修に資することを目的として実施。 １．事例検討会の実施 ・金沢区・大道小学校ふれあいむかし資料館の視察・検討会 ８／24 日（土） ・都筑区・川和小学校ふれあい郷土館の視察・検討会 10／４日（木） ・緑区・中山小学校郷土資料展示室の視察・検討会 12／24 日（火） ２．公開案研修会の実施 ２／２日（土）「学校に歴史資料室をつくっちゃおう！フォーラム in 歴博」を開催　参加者：126 人 ３．博物館デビュー・マナーブックの製作・配布 ・博物館における基礎的な事項やマナーに関して、歴史博物館、校内歴史資料室共通のブックを製作。 変型版　32 ページ、　31,000 部製作
街頭紙芝居による博物館体験促進と人材育成事業	紙芝居上演活動を介して、博物館に馴染みのない近隣の小学校低学年や未就学児を対象に、博物館デビューをサポートする。 １．街頭紙芝居の複製製作活動 ・鷲塚隆氏より寄贈された一誠会刊行紙芝居の複製製作。 ８６巻を製作。 ２．「おもしろいぞ！紙芝居」の上演活動 １）定期的上演活動（原則として毎月末の土曜日に、１日３回上演）　全 12 回　参加者：1,342 人 ２）臨時上演の実施 チボリ兄弟舎紙芝居　8／17 日（土）・18（日）実施 参加者：１９６人
年報の作成	３つの事業の実施概要、アンケート結果、整理した資料の目録、製作紙芝居の目録等を所載した「年報」を作成。

資料整理の様子

フォーラムの様子

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルム制作などによる収集活動を着実に行いました。しかし、歴史収蔵庫において虫害が確認され、資料の保管体制が不十分であったことを反省し、今後の対応策を立て、実施に移しました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進めました。また、画像資料の有料貸出も継続しました。	C
調査研究事業	収蔵資料に関する調査研究を３本、また地域資料に関する調査研究を２本実施し、その成果は報告書として刊行・公開しました。市民協働による民俗調査研究もその成果を展覧会として公開する方向へ進みました。２６年度以降の企画展の基礎調査も計画通り実施しました。	B
常設展事業	来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期のメンテナンスや部品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理に努めました。また、修繕不可能となった部分に関して展示替えを行うことを検討し、その準備を行いました。 学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説等は定着しています。ただ常設展示の入場者数は、目標の９１％で、目標には達しませんでした。	C
企画普及事業	当初計画した様々な事業は予定通り実施しました。企画展・特別展の入場者は目標の１０１％という結果でした。夏期から秋期には観覧者が減少しましたが、冬期の展覧会が好評で、目標は達成できました。	B

	市民協働においては、活動支援ボランティアが定着し、講座ＯＢ団体の活動の他に「横浜歴博もりあげ隊」が活動を展開し始めました。学校連携としては、吉田新田の出前授業・常設展示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施しました。	
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施しました。インターネットへのアクセス数は、昨年より１割強増加しました。	B
施設維持事業	経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施しました。不活性ガスボンベの交換などの施設維持と、野外施設では劣化した復元竪穴住居と高床式倉庫、木橋などの大規模な修繕と案内板などの修復を実施しました。	B
博物館デビュー支援事業	文化庁の補助金を得て、今年度より実施しました。市内小学校所蔵資料の状況確認アンケートの実施、調査チームを編成しての資料の整理・調査、先進的な取り組みを行っている小学校の歴史資料室の視察・検討会の開催、一般公開のフォーラムの開催、「博物館マナーブック」の製作などを行いました。また、紙芝居の定期的な実演、複製製作も実施しました。当初の計画通りに事業を実施することができ、新聞やテレビなどマスコミにも取り上げられ、事業効果も大きかったとみられます。	A

Ⅴ　開港資料館事業

昨年度に引き続き、幕末から昭和期の横浜の歴史を一体的にあつかう近現代歴史資料課が運営する開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の３施設では、３施設合同の連携事業を積極的に繰り広げました。特に企画展示では**関東大震災をテーマにした展示を３施設で開催し、３つの会場で大きな規模の展示を開くことができました。展示は大震災９０周年ということもあり、マスコミに大きく取り上げられました。**また、３施設の専門職は合同で資料収集や調査研究を行いましたが、その成果を再来年度に財団をあげて実施する予定の「大横浜展」（仮称）や来年度、都発を会場に実施する予定の「オリンピック５０周年　高度成長を迎えた横浜」で活用することになっています。

施設維持事業では、２６年１月から３月まで、横浜市によって新館エレベーターの改修工事が実施され、この間、臨時閉館を余儀なくされました。予定では、この間、江戸（東京）と横浜の港の歴史を比較する内容の企画展示を２つの会場（開港会場と都発会場）で同時に開催することになっていましたが、臨時閉館したため都発だけの開催になりました。しかし、開港の専門職が都発での展示開催準備に協力することによって、都発の展示はより充実したものになりました。総入館者数は臨時閉館したため、４万２千人と前年から１万人以上減少しましたが、１日平均の入館者数は前年を若干上回りました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（１）資料の収集・管理・公開（H25.4～H26.3）

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈 19 件　877 点 寄託　８件 1,099 点	主な収集資料：安西実家所蔵資料、大津完家所蔵資料、新井宏家所蔵資料ほか
資料の購入	５８件　１４０点	主な収集資料：『福沢手帳』『幕末維新変革史』『大戦間期の対中郷文化外交』ほか
古文書のマイクロ化	１０件	主な複製（マイクロ撮影）資料： DKSH ジャパン所蔵文書
資料の保存処理・修繕	５５２件	中性紙封筒への入れ替え、図書・洋新聞の修復
資料の分類・整理	古文書など 約３，０００点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 ２，２７９人 コピー枚数 ３２，４３３枚	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の撮影	撮影件数（２３件）古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。

複製フィルム等の貸出	貸出件数５２１件 １，５８８点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。
実物資料の貸出	貸出件数１１件	他の博物館（清水港博物館・鳥取県立博物館ほか）へ実物資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（H25.4～H26.3）

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	1,851 (1,851)
政府資料（点）	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	16,137 (16,137)
海外資料（点）	― (―)	2 (1,000)	15 (―)	― (―)	17 (1,000)	14,044 (14,027)
文書・記録（点）	― (33)	8 (19)	777 (78)	1,025 (2,036)	1,810 (2,166)	79,984 (78,174)
新聞資料（点）	1 (2)	― (1)	― (―)	― (―)	1 (3)	9,934 (9,933)
横浜絵・写真等（点）	39 (48)	4 (357)	41 (69)	29 (144)	113 (618)	32,469 (32,356)
コレクション（点）	― (―)	― (―)	34 (14)	― (1)	34 (15)	50,267 (50,233)
文献資料（点）	312 (261)	6 (3)	10 (―)	45 (―)	373 (264)	56,975 (56,602)
合　　計	352 (344)	20 (1,380)	877 (161)	1,099 (2,181)	2,348 (4,066)	261,661 (259,313)

※（　）内は、前年度点数。

（３）複製フィルム等の貸出実績

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への貸出	５２１件	５９２件	５９０件

（４）閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
閲覧室利用者数（人）	２，２７９	２，６８２	２，８０６
複写申込件数（件）	１，２４０	１，４５０	１，４３０
複写枚数（枚）	３２，４３３	３１，９２１	３０，９１５
レファレンス件数（件）	２，００８	２，８６９	２，７４０

（５）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
中性紙資料保存封筒作成	劣化する酸性紙保存封筒からの中性紙保存封筒への入れ替え
環境検査	５回／年　実施

（６）資料保管施設の管理

保管施設	保　管　資　料
開港資料館収蔵庫（310 ㎡）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫他	マイクロフィルム、器物資料等の収蔵と管理を行った。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。また、昨年に引き続き、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の３施設合同で、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」を行い、関係資料の収集、研究文献の掌握などを実施しました。さらに、３つの施設が所蔵する地図資料の統一的なデータベース化にも取り組みました。

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
開国・開港期の歴史	①　来年度開催予定のスイスとの通商条約締結１５０周年記念展示の準備。 ②　長野県上田市に所在する生糸貿易関係資料調査 ③　ブレンワルド日記の翻訳作業 ④　神奈川県博物館協会主催の指定管理者の導入と博物館との関係についての講演会講師 ⑤　都発で開催した特別展「港をめぐる二都物語」の企画・開催を都発の専門職と共に実施
横浜近代欧米関係史	①横浜カントリー＆アスレティッククラブ（YC&AC）所蔵資料の調査・整理・目録作成・撮影立合 ②アーネスト・サトウ関係追加寄贈予定資料の整理 ③チェンレバレン関係資料の整理 ④横浜外国人社会研究委託 ⑤居留外国人関係者へのヒヤリング ⑥地図データベース会議開催・課題検討 ⑦ブレンワルド研究会参加 ⑧特別資料コーナー展「浮世絵の中の歌舞伎役者たち」・「生麦事件の犠牲者、リチャードソンの写真、発見！」準備・開催、関連出版物の原稿執筆 ⑨『紀要』32 号・『横浜のあゆみ』第 2 版の編集・刊行
横浜近代文化史	①港南区大津家資料の受け入れ（寄託） ②スポーツ展出陳資料の返却 ③金沢区関家資料の借用・搬入・目録作成の実施 ④ヘボン展開催につき明治学院と打ち合わせ ⑤展示資料調査（順天堂大学・明治学院大学）・展示準備 ⑥郷土史協研修会（29～32 回）開催、ニュース(29～32 号)発行 ⑦古文書テキストの郷土史協加盟団体との協同刊行 ⑧YC&AC 資料調査。 ⑨ブレンワルド研究会参加 ⑩「開港のひろば」123・124 号執筆 ⑪特別資料コーナー「宣教師Ｊ．Ｃ．ヘボンの息子サムエル　Ｄ．ヘップバーン旧蔵アルバム」開催 ⑫第３回企画展「宣教医ヘボン」を担当

横浜近代アジア関係史	①「上海と横浜」展を担当・開催 ②横浜山手中華学校に寄贈された周ピアノの調査 ③富津雨宮家・桐生・盛岡・岡山・京都 周ピアノ調査 ④三鷹前田家調査・鎌倉加川家調査・周淑家調査 ⑤横浜市立大学「横浜華僑の歴史」講義（6/11） ⑥横浜山手中華学校にて周ピアノの講演（7/13） ⑦横浜音祭り参加「華僑のピアノ展」準備・開催 ⑧大徳堂資料整理 ⑨周斐宸家撮影、周淑霞・頼魚英聞取調査 ⑩華僑委託研究会 ⑪『開港のひろば』執筆・「横浜のインド人の歩み」編集 ⑫特別資料コーナー展「横浜の雪景色」設営 ⑬紀要論文「横浜華僑のピアノ製造―周興華洋琴専製所を中心に」及び「ある英国人女性の手紙―関東大震災からの逃避行」執筆 ⑭特別資料コーナー「横浜の雪景色」開催 ⑮Y155 横浜セントラルタウンフェスティバルセミナー「今に受け継ぐ開港の遺伝子」講演（3／31） ⑯第１回企画展「友好都市提携４０周年記念、上海と横浜」を担当
横浜近代社会経済史	① 館蔵諸文書の追加整理、既収集・未公開文書の整理公開 ② 近代製糸業関係資料の調査・資料整理 ③ 中山浜次郎文書の整理 開港時物産販売記録「覚」等の確認 ④ 次年度展示「蚕の化せし金貨なり…」準備 ⑤ 特別資料コーナー「横浜の山車」担当
歴史情報の集積と研究	①中区広報「三溪園の花菖蒲」(5 月号)執筆 ②新収新聞及び雑誌の整理と公開 ③特別資料コーナー「戸塚の子どもたちと絵雑誌」(会期：7 月 2 日～31 日)を開催 ④寄贈資料の受入(伊東亨家) ⑤全史料協関東部会講演会の参加記執筆 ⑥平山煙火寄贈資料の受入(勝山氏他) ⑦平山煙火関係資料調査及び借用(小野哲男家) ⑧平山花火関係資料の寄託受入、目録を作成（小野哲男家） ⑨獅子文六関係資料の調査及び撮影(神奈川近代文学館) ⑩資料調査及び借用、返却(笠原省作家) ⑪寄贈資料の受入(笠原省作家) ⑫『開港ひろば』124 号「平山煙火製造所と小野家資料」執筆
横浜近代政治史	① 企画展のリーフレット・ポスター等の準備、図録の作成 ② 都市発展記念館及び市史資料室との連携事業の準備と実施

	③『開港のひろば』執筆（121・122 号） ④『横浜市史資料室紀要』第 4 号「ジャーナリストが見た関東大震災」執筆 ⑤『横浜開港資料館紀要』第 32 号「関東大震災と陸軍法務官の活動」執筆 ⑥『横浜都市発展記念館紀要』第 10 号「関東大震災 90 周年連携展示の試み」分担執筆 ⑦ 特別資料コーナー「居留外国人の残した震災記録」設営 ⑧ 新収蔵資料の整理と公開 ⑨郷土史協研修会（29～32 回）開催、ニュース(29～32 号)発行 ⑩戦後連携研究会の運営 ⑪関東大震災 90 周年首都防災ウィーク講演「八木彩霞が見た横浜の大震災」 ⑫第２回企画展示「被災者が語る関東大震災」を担当

（２）調査研究の委託

項　　目	委託先	目的・意図　及び　内容・成果
横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究（３／３年次）	横浜近代史研究会（代表　大豆生田稔）	①鶴見川流域史の多角的分析の作業として、諸家資料の兵事関係資料について調査・分析を進めた。また、飯田助夫日記の翻刻作業を実施した。 ②神奈川県及び横浜市の行政機構の人事データ目録を整備すべく、毎年刊行される『職員録』の悉皆調査を行い、そのデータの蓄積に努めた。 ③渡辺福三郎資料から横浜を代表する原・茂木・渡辺の三商家の土地所有状況を分析した。 ④明治・大正期における神奈川県・横浜市の人事データ作成の準備作業を行った。
幕末・明治初年の貿易史と江戸期の和本に関する調査研究（３／３年次）	横浜史料調査研究会（代表　井川克彦）	①市外・市内の個人や機関が所蔵する古文書の調査と研究（ＤＫＳＨジャパン所蔵資料の調査・資料翻刻、長野県上田市の生糸貿易関係資料の調査など） ②スイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻
大正・昭和戦前期の横浜在住外国人社会の調査研究（３／３年次）	横浜外国人社会研究会（代表　本宮一男）	①ＹＣ＆ＡＣ他市内所在関係資料調査 ②横浜在住外国人のデータベース化と分析 ③アーネスト・サトウおよびＢ・Ｈ・チェンバレン関係資料の調査・整理 ④オーラルヒストリーの実施
華僑関係資料の調査研究（３／３年次）	横浜華僑史研究会（代表　曽士才）	① 中国人墓地および葬儀習慣等の調査:横浜中華義荘内の全墓石墓誌の撮影を実施した。 ② オーラルヒストリー調査の実施:上海系テーラー葉東梅氏、周ピアノ関係の頼魚英氏、中華義荘の墓石会社石井石材店臼井英明氏への聞き取調査の実施。

		③ 関連資料の調査・収集：張有憲家の葬儀写真および五十嵐英寿氏撮影関帝廟写真などを調査し、デジタル撮影。

（３）研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事　業　内　容
横浜開港資料館 紀要　第 32 号	1,250 部	1,620 円	当館専門職員等による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・「絹織物輸出商社、堀越商会の経営　一九三七～一九四一年」 ・「横浜華僑のピアノ製造　周興華洋琴専製所を中心に」 ・「関東大震災と陸軍法務官の活動　『神奈川方面警備部隊法務部日誌』を中心に」 ・「ある英国人女性の手紙　関東大地震からの逃避行」 ・「米国人女性宣教師たちが残した関東大震災の記録」

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

（１）常設展示室観覧者の推移（**目標数 50,000 人**）

	有料入館者（人）				無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1 日平均入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
25 年度	21,477	4,508	1,077	27,062	15,412	42,474	78.1%	229 日	185
24 年度	27,941	7,084	1,141	36,166	18,238	54,404	95.8%	303 日	180
23 年度	31,623	7,015	1,207	39,845	16,923	56,768	113.8%	304 日	187

（２）新収蔵資料や新発見資料を紹介する「特別資料コーナー」の設置

常設展示室の一角や旧館１階ホールを活用して、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設けたり、ミニパネル展示をおこなったりして、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項　　目	内容・成果
資料紹介	第４８回　４／２～５／３０　「浮世絵の中の歌舞伎役者たち」 ホール展　６／１～７／７　「広瀬始親写真展　横浜ノスタルジア」 第４９回　６／１～７／１２　「残されたペリーの贈り物」 第５０回　７／２～７／３１　「戸塚の子どもたちと絵雑誌」 第５１回　８／１～８／３１　「横浜の山車」 第５２回　９／１～９／１３　「居留外国人が残した震災記録」 第５３回　９／１４～９／２９　「生麦事件の犠牲者、リチャードソンの写真、発見！」

	ホール展　９／２０～１０／１４「横浜華僑のピアノ製造」 第５４回　１０／１～１２／１　「宣教師Ｊ．Ｃ．ヘボンの息子サムエルＤ．ヘップバーン旧蔵アルバム」 第５５回　１２／４～１２／２７「明治の横浜・雪景色」
・開港（開館）記念日に関する事業	・ミュージアムショップセールを実施し、グッズ販売を促進した ・記念室を一般開放し、李ピアノを公開した

（３）旧館ホール・中庭展示

昨年度から来館者の動向調査を兼ねて、無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計を始めた。

旧館ホール見学者：４７，２１１人

中庭展示見学者　：６４，４２９人（目標数 100,000 人）

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、研修会の実施や出版物の作成指導等を行いました。

（１）企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図　及び　内容・成果
「上海と横浜　波濤をこえて ー夢・汗・涙が都市をむすぶ」 H25.4.24(水)～7.7(日) 会期 65 日	期間合計 14,154 人 （目標数 16,000 人） 1日あたり ２１８人	横浜上海友好都市提携 40 周年を記念し、開港期から昭和初期頃までを中心に、上海と横浜二つの都市を行きかった人びとに焦点をあて、先人たちがつむいだ両市のつながりをたどった。外国の都市関わる展示は市民の関心を得ることが難しいが、今回は人物を切り口に親しみやすい構成をこころがけた。
関東大震災 90 周年連携展示 「被災者が語る関東大震災」 H25.7.13(土)～10.14(月・祝) 会期 81 日 ※横浜市史資料室・横浜都市発展記念館との連携展示	16,218 人 （目標数 20,000 人） 1日あたり 200 人	本展示では、横浜都市発展記念館・横浜開港資料館、および横浜市史資料室が連携して、各施設が所蔵する歴史資料を一堂に集め、三施設を会場としたこれまでにない規模で、横浜における関東大震災とその後の復興過程をたどった。また三施設の展示内容を盛り込んだ展示図録の出版をはじめ、連続講座・記念講演会などの普及事業も連携して実施した。
「宣教医ヘボン　～ローマ字・和英辞書・翻訳聖書のパイオニア～」 H25.10.18(金)～H25.12.27(日) 会期 61 日	10,021 人 （目標数 14,000 人） 1日あたり 164 人	当館では、横浜に暮らし活動したヘボンについて、開館以来、関係資料を収集してきており、また明治学院も収集に努めてきた。本展示では、明治学院の協力を得て、新収資料やヘボンゆかりの資料を中心に、日本におけるプロテスタント宣教のパイオニア、ヘボンの足跡をたどった。 展示関連事業として、明治学院主催事業の開催

		・ヘボン邸ジオラマ展示＋ヘボン関係史跡のパネル展示　於旧館旧館１階ホール ・『和英語林集成』関連展示　於旧館旧館記念室 ・神奈川新聞２面に学院長との対談掲載

第２回企画展示「被災者が語る関東大震災」
八木彩霞作成「大震災画録」及び「関東地方大震災画録」
（八木洋美氏所蔵／横浜開港資料館保管）

※２５年度第４回企画展示は、横浜市が新館エレベーター改修工事をおこなったため中止した。ただし、横浜都市発展記念館で開催した特別展示「港をめぐる二都物語―江戸東京と横浜」展に所蔵資料を出品するとともに、展示を共同で企画し、図録も共同で編集した。

（２）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事　業　内　容
第２回企画展示関連事業 講演会「関東大震災の災害教訓－東京・横浜の比較から－」 横浜市史資料室・横浜都市発展記念館との連携事業	１５１人	９/１（日）、会場は横浜市中央図書館・地下１階ホール I. 展示解説（約 20 分） 「レンズがとらえた震災復興　1923～1929」 松本洋幸（横浜市史資料室調査研究員） 展示資料の見どころをスライドで解説した。 II. 関連講演（約 2 時間） ①「ジャーナリストが見た関東大震災」 吉田律人（横浜開港資料館調査研究員） ②「横浜の関東大震災を歩く－東京との比較から見えること－」 武村雅之（名古屋大学減災連携研究センター教授） ③「震災に立ち向かった人びと」 鈴木淳（東京大学大学院人文社会系研究科教授） III. パネルディスカッション（約 1 時間） 第 II 部の講演者３名とフロア参加者によるパネルディスカッションを行った。
第３回企画展示関連事業 資料講読講座 「資料にみるヘボン」	１３３人	・資料講読講座「資料にみるヘボン」於横浜開港資料館講堂 横浜開港資料館主催／学校法人明治学院共催 １１月３０日(土)　小宮山博史氏 (佐藤タイポグラフィ研究所代表) 「『和英語林集成』と幕末・明治の出版文化」 １２月７日(土)　木村一氏 (東洋大学文学部准教授／ 明治学院大学キリスト教研究所協力研究員) 「『和英語林集成』とヘボン」

		１２月１４日(土)　岡部一興氏(キリスト教史学会庶務理事) 「ヘボン書簡にみる幕末・明治の横浜」
第３回企画展示関連事業 横浜散策 「ヘボン先生の足跡」	１６８人	ヘボンゆかりの地ウォーキング １１/６・１２・１７・２０（午前・午後）・２２ 明治学院主催／横浜開港資料館共催／横浜シティガイド協会協力　展示解説（会期中６回）＋ウォーキング

（３）各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事　業　内　容
関東大震災 90 周年 関東大震災と横浜	2,000 部	1,234 円	横浜都市発展記念館・横浜開港資料館・横浜市史資料室の震災 90 周年記念連携展示で展示された代表的な資料を１冊に集めた。総頁数 63 頁
第３回企画展示「宣教医ヘボン」図録	2,500 部	1,080 円	ヘボンの生涯と、ヘボン式ローマ字の創始、日本最初の和英辞書の編さん等々、日本の近代化に大きな足跡をのこしたヘボンの業績の数々を簡潔にまとめた、「宣教医ヘボン展」関連図録。総頁数 63 頁。 （1,000 部 明治学院へ寄贈／1,000 部 当館販売分／500 部 当館寄贈分）
「横浜のあゆみ」 第２版	1,500 部	810 円	小中学校生を対象にした出版物として昭和 56 年に作成して第６刷まで増刷を重ねたが、昨年度に在庫切れとなったのを機に、近年の貿易額・人口・港湾埋め立て図・年表等の最新のデータを加えて大幅な改訂を行った。総頁数 48 頁。

（４）市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成１８年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。（平成 24 年度末現在、加盟 52 団体　賛助会員 1 団体）

項　　目	事　業　内　容　等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	①　総会・研修会・特別講演会 大会　4/27(土) 研修会　第 29 回　5/24（金）　第 30 回　7/30(火) 第 31 回　10/30（水）　第 32 回　3/11(火)　全４回　参加者　計 109 名 公開講演会　11/10（日）参加者　36 名 ②横浜郷土史連絡協議会 News の発行 29 号～32 号 ③「特別講座資料に触れる」を実施（全 2 回） ④青葉区の加盟団体と古文書解読テキストを編集 ⑤会報 8 号を刊行

横浜郷土史団体連絡協議会大会

横浜郷土史団体連絡協議会研修会

（５）新聞社各社への記事連載への協力

項　　目	事　業　内　容　等
神奈川新聞連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」執筆・監修、	神奈川新聞の連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」は月１回第３水曜日掲載で連載が継続中。監修を担当。他の連載は企画展にあわせて随時執筆。

（６）実習・研修の受け入れ

項　　目	事　業　内　容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップなど	①博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8／27（火）～9／1（日）、受入数：12 人 ②横浜市立大学大学院生のインターンシップ　（3 人） 期間：6／18（土）～10／17（水）（のべ 11 日間） ③横浜市立の小中学校教諭の初任者研修に協力 8／7（水） 受入数：21 人 ④国文学研究資料館アーカイブ・カレッジ（資料管理学研修会）に協力 9／5（木） 受入数：35 人

（７）広報紙の発行、一般広報等

項　　目	事　業　内　容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介　第１２０号～１２３号（年４回）年間合計 55,000 部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用) 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用) 横浜開港資料館催し物案内、年２回
その他広報	①　インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 鉄道各駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ④みなとみらい線日本大通り駅構内のポスター掲示 みなとみらい線駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ⑤市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布

	⑥区連会掲示板などへのチラシ掲出 ⑦一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への随時記事掲載 ⑧ＴＶ、ラジオ、ＦＭ放送、ＣＡＴＶ等の放送メディア利用 ⑨企画展後援新聞での連載・市広報誌等への記事掲載 ⑩各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動

（８）横浜市役所などとの連携事業

項　　目	事　業　内　容　等
横浜市役所や横浜シティガイド協会との連携事業	「広報よこはま　中区版」に、連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と分担して執筆。

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
インターネットによる情報公開	ホームページの内容、体裁を一新し、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を行った。また、昨年度から開始したOPACでの所蔵図書の追加を順次おこない、ウェブ上での検索対象図書を増やした。さらに「開港のひろば」を追加し、全号がウェブ上で閲覧可能となった。 ・ＨＰアクセス件数　合計113,917（前年度124,087件）
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を第75号～第89号(計18回)、約950～1,000名の登録者に配信した。

６　開港資料館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	必要に応じた施設の維持管理を実施、横浜市が実施したエレベーター改修工事に協力し、工事を滞りなく終えた。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	寄贈・寄託を中心に２，３４８点の資料を収集し、２５年度末の所蔵資料総点数は２６万点を超えた。	B
調査研究事業	調査研究員の研究事業および外部研究者に委託した調査研究活動は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。研究の成果は新聞・雑	A

	誌、テレビで多数取り上げられた。	
常設展事業	新収・新発見資料を紹介する「特別資料コーナー」や記念ホールで１０回にわたって展示を開催した。また、「特別資料コーナー」で紹介した資料がマスコミで取り上げられた。	B
企画普及事業	入館者は約４万２千人で、前年の７８％であった。原因はエレベーター改修工事の実施にともなう臨時閉館にあり、開館日が７０日以上も減少したことによっている。１日あたりの入館者数では前年を上回った。	C
情報事業	メールニュースでの情報発信は約１０００人で順調である。HP のアクセス数は１１万件を超え、ほぼ前年の水準を保っている。新聞などのマスコミへの情報発信も順調で、朝日・読売などへの掲載も多い。	A
施設維持事業	２６年１月～３月にかけて新館エレベーター改修工事を実施した。。	B

Ⅵ　都市発展記念館事業

都市発展記念館では、昨年度に引き続き近現代歴史資料課が運営する都発・開港・市史の３施設連携事業を積極的に展開しました。企画展示では、**関東大震災９０周年展示を３施設共同で開催しました。この展示では広報を一体的におこなうと同時に、メイン会場を都発とし、開港では震災当時の人々の姿を、市史では写された震災の写真を紹介しました。それぞれの施設の展示に特色を持たせた結果、相乗効果が生まれ入館者の増加につながりました。**また、第２回特別展「港をめぐる二都物語」は開港と共催で実施し、両館の職員が企画から実施までの作業を分担して行いました。現在も３施設は共同して調査・研究を進めており、その成果は今後も各施設で紹介していきます。

常設展示では、**中庭の野外展示を株式会社三陽物産からの寄付金５００万円を活用して整備し、本町小学校から出土した横浜市瓦斯局の煉瓦基礎や神奈川台場の礎石を移設しました。**今後、野外展示を活用した事業を展開し、中庭の賑わいを創出したいと考えています。このほか、小学校団体見学の受け入れも順調に増加し、１０４校、９１６１人の団体入館がありました。さらに、ユー文と共同して夏祭りなどのイベントも開催し、この結果、常設展入館者数（３９，６８８人)、企画展入館者数ともに前年度を大きく上回りました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

（１）資料収集

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈１３件５６０点 寄託０件　０点	主な収集資料：フェリス和英女学校関連資料、横浜市電記念乗車券、関東大震災・震災復興関係写真、横浜大空襲直後の市内写真、第9代横浜市長渡辺勝三郎旧蔵の眞葛焼花瓶
資料の購入	６４件　１１６点	主な収集資料：横浜駅開通式写真、関東大震大火記念写真帖、神奈川県震災誌、復興完成記念横浜航空鳥瞰写真地図、日本住宅公団分譲賃貸案内、公団分譲住宅入居者調査報告、神奈川県京浜工業地帯計画平面図、第18回オリンピック東京大会神奈川県、横浜国際港都建設総合基幹計画書
資料修繕	０件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	０件　０点	主な複製資料：なし
資料のデジタル化	３９４点	主な資料：関東大震災関係写真
複製資料の提供	３３件　７１点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。
資料の貸出	１件　１０点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料の貸出を

		おこなった。川崎市市民ミュージアム特別展「カワサキ・シティ」（10月12日～12月15日）

（２）資料収集実績（H24.4～H25.3）

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	0 （4）	0 （0）	1 （３１）	0 （0）	1 （３５）	1,358 (1,357)
図書	３９ （６９）	0 （0）	1 （１４）	0 （0）	４０ （８３）	2,080 (2,040)
新聞雑誌	１２ （２７）	0 （0）	１１９ （2）	0 （0）	１３１ （２９）	1,956 (1,825)
文書	３１ （２９）	0 （0）	0 （１３）	0 （0）	３１ （４２）	3,373 (3,342)
紙票類	１０ （１０３）	0 （0）	３３ （１１５）	0 （0）	４３ （２１８）	2,172 (2,129)
写真	1 （8）	0 （0）	４０６ （６４）	0 （0）	４０７ （７２）	7,315 (6,908)
絵葉書	6 （２７）	0 （0）	0 （9）	0 （0）	6 （３６）	2,418 (2,412)
地図	１７ （1）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	１７ （1）	671 (654)
図面	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	938 (938)
絵画	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	1 (1)
映像	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	54 (54)
録音資料	3 （3）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （3）	171 (171)
電子資料	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	0 （0）	21 (12)
合　　計	１１６ （２７１）	0 （0）	５６０ （２４８）	0 （0）	６７６ （５１９）	22,519 (21,843)

※（　）内は、前年度点数。

（３）資料の保存・管理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
保存燻蒸処理	大型資料については「ふくろう君」（文化財用炭酸ガス）による資料の燻蒸を実施した。また、小型、少量の資料については、脱酸素剤を用いた無酸素法により適宜資料の殺虫処理をおこなった。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年６回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

（４）資料保管施設

保管施設	保　管　資　料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200㎡）	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫（子安台）	大型家具（昭和初期の置時計・大テーブル他）などを収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

（５）画像資料の公開

横浜市中心部の地図にさまざまな施設をポイントし、関連する画像や歴史情報を閲覧できるようにした「横浜歴史情報マップ」。今年度は解説の補充をおこなった。また、「WEBアルバム　横浜グラフ」については記事索引を作成・公開した。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の３つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また、**開港資料館・市史資料室との連携研究事業を進めました。**

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
横浜市域の近代遺跡と出土遺物に関する調査研究（３／５年次）	本年度は、関東大震災に関する遺跡調査として、従来報告されていないものを含めて震災関連慰霊碑の現地調査を実施し、成果の一部を特別展「関東大震災と横浜」で紹介したほか、普及事業として、中区・南区の震災遺跡をめぐる歴史散歩を実施した。 また、横浜市職員の旧蔵になる関東大震災関係写真394点の整理・分析をおこない、紀要10号にて写真目録を公開した。
館蔵総合文書目録の作成に関する調査研究（２／３年次）	資料群ごとにその概要を把握する作業を進めた。また、一部の資料群については資料１点ごとの目録を作成した。
地図データベース作成に関する調査研究（２／４年次）	当館および開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。今年度も、前年度から継続して、所蔵地図資料の選別とデータベース登録作業を進めた。当館および開港資料館所蔵分の作業についてはほぼ終了した。
横浜・東京の都市生活史に関する調査研究（１／３年次）	横浜・東京の都市生活の様相を示す原資料のうち、両都市の港湾に関する情報が記されている資料を重点的に収集・借用・分析し、「港をめぐる二都物語　江戸東京と横浜」展にて出陳・紹介した。また、昭和20年代の横浜市民の食生活の様相がわかる「炊事日記」（当館蔵）の翻刻を行った。

（２）戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して昨年度立ち上げた。今年度は「横浜の団地」を中心テーマに掲げて、10 回の定例会を実施した。うち外部講師２回（青木俊也氏「現代史展示『常盤平団地の誕生』の 23 年間～歴史系博物館における高度成長期へのアプローチ」、金子淳氏「歴史系地域博物館における高度成長期の展示への視点～多摩ニュータウンへのアプローチを中心に」）。また、公田町団地（栄区）住民への資料調査、県立公文書館所蔵の高度成長期県政資料の複写、旧住宅公団作成の統計データのデジタル化、市広報誌の記事目録の作成など、基礎となる作業を行った。

（３）資料の調査整理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
資料の整理・目録作成	調査研究で収集した資料･データなどの整理･目録作成を行った。

	主な整理資料：佐藤寛氏寄贈関東大震災関係写真、五十嵐英壽氏撮影写真

（４）研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図　及び　内容・成果
横浜都市発展記念館紀要　第10号	1,000部	関東大震災90周年特集号として、当館調査研究員及び外部研究者による調査研究、資料整理等の成果を公開した。 ・横浜市における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 ・関東大震災90周年連携展示の試み ・横浜市が記録した関東大震災と震災復興

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

（１）常設展示に関する実施事業

項　　目	事　業　内　容
展示資料の更新	・教員研修や小学校団体見学向けに、夏期以降、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナーを一定期間設置した。
コーナー展の開催	・昭和はじめの女学校―フェリス和英女学校卒業生の旧蔵資料から―　1/29（火）～4/19(金) ・昭和40年代の横浜市電～横浜にチンチン電車が走った最後の時代　4/27（土）～6/30（日） ・神奈川の山々～昭和初期の刊行印刷物より　7/2（火）～9/1（日） ・復興の横浜～新収蔵写真から　10/16（水）～2/14（金） ・建築家J.H.モーガンと昭和の横浜　2/15（土）～5/11（日）

（２）常設展示観覧者の推移（**目標数30,000人**）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
２５年度	871	536	1,407	38,281	**39,688**	119.8%	306日	129
２４年度	1,169	981	2,150	30,985	33,135	106.9%	307日	107
２３年度	11,676	1,373	13,049	21,953	35,002	287.2%	310日	113

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

（１）企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
特別展「ベースボール・シティ横浜」 H25.2.2(土)～4.7(日) (H25年度6日)	一般 300円 小・中 150円	25年度分 676人 会期総数 8,161人 (目標数 5,600人)	横浜公園（平和）球場から横浜スタジアムへの歴史を交え、ハマの早慶戦、Ｙ校、そしてベイスターズまで、横浜の昭和の野球史を紹介した。 ①関連パネル展「プレイバック大洋・横浜」 （～7日、於ギャラリー） ②週末祝日のワークショップ開催　参加者：132名
開館10周年記念特別展「関東大震災と横浜」 H25.7.13(土) ～10.14(月・祝) 会期81日	一般 300円 小・中 150円	**11,623人** **(目標数** **8,000人)** 1日あたり143人	関東大震災90周年展示として、横浜開港資料館・横浜市史資料室と連携し、三施設を会場としたこれまでにない規模で、横浜における関東大震災とその後の復興過程を紹介した。開港資料館との両館観覧共通割引券を販売したほか、三施設の展示内容を一冊にまとめた展示図録を製作した。関連事業においても連続講座（主催：開港資料館)、記念講演会（主催：市史資料室)、歴史散歩（主催：当館）などを三施設の担当が相互に協力して実施した。 ①　展示図録の編集・発行 （開港資料館、市史資料室との共同製作） 部数：2000部、定価：1200円、売上：333部 ②担当者による展示解説 7/14（日）19人、7/28（日）24人、8/17（土）40人8/18（日）32人、9/8（日）36人、10/6（日）16人　　合計167人 ③歴史散歩「関東大震災を歩く」 （共催：横浜シティガイド協会） 9/16（月・祝）台風により中止、解説のみ参加2人 9/21（土）38人、 9/23（月・祝）39人、9/28（土）33人 ④関連写真展「3.11から今　復興への願い」 会場：旧第一玄関 前期「だけどぼくらはくじけない～大槌町から～」 7/13（土）～8/25（日） ギャラリートーク（阿部美香子氏、菊池由紀子氏） 7/14（日）　参加者41人

			参加型パフォーマンス「つむぎね」 8/25（日）　参加者25人 後期「いつか帰りたいぼくのふるさと」 8/27（火）～10/14（月・祝） ギャラリートーク＆サイン会（大塚敦子氏） 9/22（日）　参加者79人 ⑤関連パネル展示「横浜市の防災対策」 会場：１階ギャラリー ⑥関東大震災延焼アニメーションの展示 会場：１階ギャラリー ⑦ミニコーナー「横浜市が記録した震災と復興」 9/8（日）～10/14（月・祝） ⑧小学生による展示感想文の募集・掲示　101 枚
特別展 「港をめぐる二都物語 江戸東京と横浜」 H26.1.25(土)～ 4.13(日) 会期68日(25年度56日)	一般 300円 小・中 150円	25年度内 実績 9,056人 （目標数 5,600人） 1日あたり161人 会期中計 実績 9,908 人 1 日あたり 145 人	本展では、港をめぐる江戸・東京と横浜の動きを横浜開港（1859 年）から東京開港（1941 年）までたどりながら、ふたつの港の歴史的風景を紹介した（開港資料館と共催)。都市横浜と東京との関係を考える初の展覧会であり、東京のメディアでも紹介され、東京方面から多くの観覧者を集めた。 以下の関連事業を実施した。 ①　展示関連書籍の編集･発行(開港資料館との共編) 部数：1500 部、定価：1080 円、売上：361 部 一般の観覧者が読みやすいように、文章を主体としたハンディな「図説」の形態で制作した。会期終了後は一般書店で販売することも想定している。 ②担当者による展示解説 1/26（日)、2/14（金)、3/8（土)、4/5（土)（全４回）参加者：計93人 ③横浜ユーラシア文化館パネル展「ユーラシア二都物語」　会場：横浜ユーラシア文化館常設展示室 1/15（水）～4/13（日） ④ボートツアー「ボートでめぐる二つの港」 (A) 3/28（金）　13時30分～　所要約2時間 東京コース　パレット桟橋～築地～芝浦～お台場～パレット桟橋 (B) 3/30（日）10時～、13時30分～　所要約2時間 横浜コース　象の鼻～鶴見～川崎～羽田（往復） 参加費：Aコース　大人4,000円、小中学生2,500円 Bコース　大人3,500円、小中学生2,000円

			参加者：Aコース13名　Bコース午前25名 午後中止 ⑤歴史散歩「ハマの港をめぐる」 当館での展示解説ののち、横浜港をガイドの案内でめぐった。 日時： 2/13（木）、2/27（木）13時～16時30分 コース： 当館→象の鼻→横浜税関→山下公園→港の見える丘公園 共催： ＮＰＯ法人横浜シティガイド協会 参加費： 各回保険代含む500円 （別途、特別展観覧料300円） 定員 ： 参加者合計31人 ⑤写真パネル展「高度成長期　横浜の港」 会場：１階ギャラリー ⑥関連写真展「中野武正写真展横浜逍遥1938～1941」 3/1（土）～4/20（日） 会場：旧第一玄関 ⑦関連ワークショップ ジャンボ双六、灯台ペーパークラフト 活動支援ボランティアにより実施。
次年度企画展準備			・「五十嵐英壽写真展」（仮称）の準備として、五十嵐英壽氏撮影写真のデジタル化と基礎目録の作成を実施した。 ・「高度成長期の横浜」（仮称）の準備として、「横浜の団地」をテーマに、団地住民へのヒアリングおよび資料調査、公団・公社、行政、私鉄などへの資料調査を実施した。
展示室内可動式造作壁の新規製作			職員だけで自由に展示室の間仕切りが変更できるよう、新規に可動式造作壁を製作した。

ボートツアー「ボートでめぐる二つの港」

特別展「関東大震災と横浜」展示解説

（２）企画展示室観覧者の推移（**目標数13,600人**）

	有料入館者（人）	無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
２５年度	5,589	15,768	**21,357**	151.3%	143	149
２４年度	4,450	9,665	14,115	89.2%	112	126
２３年度	6,764	9,049	15,813	252.6%	117	135

※都市発展記念館とユーラシア文化館は企画展示室を共用しており、都市発展記念館は、23・24・25年度は2回の企画展・特別展を開催しました。

大塚敦子氏ギャラリートーク

ジャンボ双六ワークショップ

（３）講座・講演会・歴史散歩など普及事業

事業名称	参加者数	事　業　内　容
開館10周年記念パネル展 「10年のあゆみ」 H25.2.21（木）～7.6（土）		開館以来の企画展・特別展ポスターを展示し、人気投票を実施した（投票数 224 票）。 会場：旧第一玄関
「ミュージアム･クイズラリーよこはま2013」への参加 H25.7.13（土）～9.1（日）	289人（当館のみ）	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設 15 館でクイズラリーを実施した（県立歴史博物館主催）。
夏祭りの開催 H25.8.17（土）・18（日）	2,973人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 ワークショップ「アニメで作る横浜の街」 「地震の危険から身を守ろう」（協力：中区消防署） 文殊の知恵熱パフォーマンス他 活動支援ボランティアによる支援（のべ 22 人）
「子どもアドベンチャー2013」への参加 H25.8.21（水）・22（木）	23人	市教育委員会が主催する子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2013」に参加。市内小中学生を対象に「一日まるごと博物館」と題して、展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーを実施した。
横浜都ユ大道芸の開催 H25.10/13･11/10･12/8･1/12	494人	月１回第２日曜日に、中庭・旧第一玄関を利用して大道芸を開催。大道芸にあわせて旧第一玄関の大桟橋通り側の扉を開放し、歩行者の誘導を試みた。

月イチ講座の開催	112人	1階ギャラリーを活用した月1回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第1回「東京開港問題と横浜」(4/20) 第2回「関東大震災と赤レンガ」(5/18) 第3回「横浜の市電」(6/15) 第7回「横浜開港と東京開港」(10/26) 第8回「都市交通としての路面電車のはじまりー横浜電気鉄道の時代」(11/23) 第9回「関東大震災と復興小学校」(12/14)
中庭屋外展示の整備		株式会社三陽物産からの寄付金にもとづき、中庭屋外展示の整備を実施した。あらたな展示資料として**横浜市瓦斯局の煉瓦基礎、神奈川台場の石を移設**し、近隣の歴史的建造物の案内サインをはじめ解説パネルを全面的にリニューアルした。また屋外展示スペースの花壇を全面的に入れ替え、ベンチを新設した。オープンに際しては、寄付者・協力者を招いて感謝状贈呈の式典を開催した。
開館祭の開催 H26.3.15(土)・16(日)	4,853人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 手回しトロッコ「横浜市電に乗ってみよう!」 神奈川ニュース上映会、特別展展示案内、ジャンボ双六 サーカスはリヤカーに乗って、大道芸など 活動支援ボランティアによる支援(のべ22名)

開館祭(3月)

屋外展示の整備「中庭リ・ボーン」

(5)学校連携事業

項　　目	事　業　内　容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。104校、9,161人の小学校4年生の団体入館があった。(前年度73校、6,347人)

教員向け研修の実施	財団エデュケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した（参加者21人）。
学芸員実習の受け入れ	４名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。
中学生職場体験の受け入れ	３校６名の中学生職場体験を受け入れ、ブログを使った広報、煉瓦の拓本採取などの作業を実施した。

教員向け研修

学芸員実習生によるミニ展示

（６）近現代歴史資料課での施設間連携の強化

項　　目	事　業　内　容
連携企画展の実施	今年度実施の特別展「関東大震災と横浜」「港をめぐる二都物語」は、いずれも企画段階から連携施設の担当者間で協議をおこないながら展示準備を進めた。また関連事業も、施設の枠を超えて担当者が互いに協力しあって実施した。
地図データベース作成に関する調査研究	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースをまず作成し、次に各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。
共同資料調査	開港資料館、市史資料室との連携研究会で実施する資料収集・調査事業として、栄区公田町団地内住民への資料調査、神奈川県立公文書館所蔵の高度成長期都市開発関連の資料調査を実施した。

（７）広報

項　　目	事　業　内　容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りな

	がら、定期的に配布した。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第20、21号（各10,000部）
優待カードの発行	年間パス「ＥＡハマ発カード」の販売を継続した。 年会費　１，５００円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのＰＲ

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開
メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数　３８号～４１号＋号外４回　計８回
「横浜歴史情報デジタルマップ」等データベースの拡充	昭和初期の横浜の地図をリライトし、地図上の当該箇所に関する歴史資料（画像）・歴史的情報を表示させる「横浜歴史情報マップ」。今年度は解説の補充をおこなった。また、『横浜グラフ』の記事一覧を作成して利用者の便宜をはかった。
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真

	付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数　１８件（前年度３４件）
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 アクセス件数　７２，９２４件（前年度４７，０５２件） ＊Total Unique IPsの数値。ページビューは642,923件

６　都市発展記念館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理　　所在地：中区日本大通１２ ・主な修繕：２F, ４F 常設展示室空調機修繕。地下機械室収蔵庫送風排気ファン修繕。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	５６０点の寄贈を受け入れたほか、１１６点の資料を購入した。企画展示開催にともない震災関係資料の寄贈が多くあり、関係資料の充実をはかることができた。	A
調査研究事業	予定していた調査研究については、予定どおり進捗することができた。加えて、開港資料館・市史資料室・都市発展記念館の３施設が共同で研究や資料整理などを行い、今後の企画展示などへ成果を提供できるようになった。	A
常設展事業	観覧者数は３万９千人を超え、１日平均観覧者数も１２９人に達した。無料観覧者が大部分を占めるものの、学校団体の受け入れも順調で、年間３万人の観覧者数を維持できるようになった。	A
企画普及事業	企画展示観覧者数は２万１千人を超え、昨年度に比べ６千人増加した。企画展示は近現代歴史資料課が一体となっておこなう体制を作ることができた。また企画展関連イベントも好評で、入館者数や知名度のアップにつながった。	A
情報事業	定期的なメールニュースの発行、ブログを利用した情報発信に加えて、ＨＰ上で公開している「横浜歴史情報デジタルマップ」等の画像データ	A

	ベースでも情報公開を継続した。ＨＰへのアクセス数は 72,924 件に達した。	
施設維持事業	自由に展示室の間仕切りができるように新規に可動式造作壁を制作した。この結果、展示ごとに業者に壁を作ってもらうことがなくなり、経費削減になった。	B

Ⅶ　ユーラシア文化館事業

今年度は開館 10 周年の年であり、特別展を２本実施するとともに、学校誘致や 10 周年の記念イベントなどにも力を入れ、大きな成果を得ました。

特別展は、マルコ・ポーロと遣唐使を素材にユーラシアの東西交流をテーマとした２つの展示会を行い、ユーラシア文化館らしさを発信しました。とりわけ**遣唐使展は、ユーラシア概念の検討に関する研究の成果を踏まえ、課題となっていた歴史博物館との連携事業として実施し、歴史博物館を会場にシンポジウムも開催しました。**

調査研究では、引き続き歴史博物館の協力を得てユーラシア概念の一般化を目指す研究を進め、その概要を紀要に載せました。学校との連携では定着した小学４年生の学校団体見学利用に加え、**当館独自の取り組みとして、小学２年生のモンゴル童話学習と関連付けて、昨年は試行であったゲルを活用した見学及び体験学習を本格的に事業化し、大きな成果をあげました。**

普及啓発事業では、昨年度に引き続き１**階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）や中庭を活用**し、企画展関連ミニ展示や各種パネル展、写真展、ミニコンサート、大道芸やワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。また、6月2日の開港記念日、夏期の夏祭り、３月の開館祭を無料開館とし、市民の方が当館を身近に感じていただけるような様々なイベントを展開しました。

以上の取り組みの結果、常設展観覧者数は 39,232 人（1 日平均 128 人）、企画展観覧者数は 14,752 人（1 日平均 129 人）、市内学校団体来館数は 122 校、10,047 人（内小学校４年生 104 校 9,161 人）となり、**いずれも目標値を超え、常設展・企画展の１日平均の来館者数と市内学校団体来館数は過去最高の数値**となりました

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（１）資料収集・保存

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈　８点 寄託　０点	主な収集資料：青銅製衡（モンゴル、紀元前第1千年紀前半）、青銅製鐙（シリア、13～14世紀）等
資料の購入	０点	主な収集資料：なし
資料熟覧	７件	獣帯鏡等3点（東京国立博物館研究員による資料調査）、敷物等2点（美術史研究者による資料調査）ほか
文献資料熟覧	３２件	鏡関連研究書（市民研究者）、*Eurasia septentrionalis antiqua*（創価大学教授）ほか
資料の貸出	２件８８点	古代オリエント博物館特別展「発掘・ユーフラテス―最古の文明を生んだ河―」(7/27～9/23)、九州国立博物館「江上波夫の眼　かたちとことば」(11/14～2/2) に出陳
収蔵資料の画像利用	４件	鳥文双注口付壺形土器１点（『古代オリエント博物館

		紀要』)、オロンスム文書3点等12点（『図録文字から見る歴史と文化』山川出版社)、上記資料出陳展覧会の図録およびパネルに掲載。

（２）文献資料の整理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
バジル・グレイ旧蔵書	書誌データの内容を確認した。確認件数 633 件
和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。入力件数 458 件
雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 122 件 目次入力を行った。入力件数 6,800 件

（３）資料収集実績

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (－)	0 (－)	8 (19)	0 (－)	8 (19)	4708 (4700)
図書	2 (6)	0 (－)	61 (578)	0 (－)	63 (584)	20,422 (20,359)
雑誌	4 (3)	0 (－)	22 (180)	0 (－)	26 (183)	8,009 (7,983)
電子資料	0 (－)	0 (－)	0 (0)	0 (－)	0 (0)	0 (0)
合　　計	6 (9)	0 (－)	91 (777)	0 (－)	97 (786)	33,139 (33,042)

※（　）内は、前年度点数。

（４）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
保存燻蒸処理	資料保全のため、受贈した民族資料および書籍の二酸化炭素燻蒸を実施し、収蔵庫へ納めた。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年６回の環境検査を実施した。

（５）資料保管施設

保管施設	保　管　資　料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200 ㎡）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行いました。昨年度から、東部ユーラシア世界に関する歴史博物館との共同研究も開始しました。

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
日本における「ユーラシア」の理解に関する研究	前年度までの成果を広く公開するため、講座などで話題としたほか、「東部ユーラシアの文化交流の研究」と連携したユーラシア研究会における発表概

（２／３年）	要を紀要第2号に掲載した。学校教育におけるユーラシアの取り上げられ方については出版物を系統的に調査するには至らず、次年度の課題としたい。
東部ユーラシアの文化交流の研究（２／３年）	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。**歴史博物館学芸員の協力を得て、日本を含む東部ユーラシア諸地域についての調査研究成果を、今年度の特別展示、関連図書の刊行、シンポジウムの開催に活かした。** **歴史博物館との連携事業。**
館蔵絵図の研究（１／１年）	当館所蔵絵図「自鑪庁至烏斯蔵程站輿図」と類品との比較研究および所蔵絵図の赤外撮影を行った。12 月の特別公開は、開館以来の研究成果を総括する内容とした。大学生のレポートの課題ともなり、「文字を読む」だけでなく「ものを見る」力をつけるための教育に貢献した。 **東海大学との共同研究。**
フィリピン土器の研究（１／１年）	フィリピンで考古学的調査を行っている日本人研究者たちに学びつつ、その最新の成果を取り入れた特別公開を実施した。特別公開の際には大学教育と連携し学生のレポート作成にも協力した。フィリピンの土器研究に関連し、日本人研究者とフィリピン人研究者の共著論文が当館紀要に掲載された。平成27年度にはフィリピンからの協力も得た展覧会を計画しており、それにつなげていくことのできる成果となった。
唐代東アジア文化圏の研究（１／１）	遣唐使の時代を軸として、日本・中国・朝鮮半島での交流の歴史、さらには中央アジアとの関係を踏まえた唐朝の国際性と日本への影響を、考古遺物・美術工芸品・文献資料を通して具体的に検証した。調査研究の成果は、歴史博物館との共催で開催した特別展「遣唐使は見た！－憧れの国際都市 長安－」で公開した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究（３／５年）	市民研究者を監修として中国鏡銘文データベースの構築を開始した。主要文献の入力を終え校正作業に入っており、順調に作業を進めている。 デジタルアーカイブズとして、市民から寄贈を受けた写真のデータベースの構築を進めているが、わかりやすく使いやすいデータベースとしてウェブ公開するには、既存のデータベースを含め、ウェブサイト全体を見直していく必要があると思われ、今年度は公開を見合わせた。同じくデータベースを構築している「メソポタミア楔形粘土板文書の研究」と連携して、次年度の作業を進めていく。
遊牧世界の物質文化の研究（３／５年）	歴史博物館の協力により、当館所蔵の関連資料のＸ線撮影を行う機会を得た。これにより、当初の計画とは異なって、今年度は館蔵の遊牧文化関連資料を詳細に調査するとことなり、その成果を紀要に掲載した。また、当館のモンゴル関連イベントが好評であることから、学習教材となる民族資料についてモンゴル人からの聞き取り調査を行い、イベント時の配布物を作成、解説に活用した。
収蔵資料と関連資料の研究（３／５年）	館蔵ガラス資料に関連する調査を行い、その内容を 2 回の月イチ講座で発表した。また、イスラム文学作品からガラスに係わる記述（化粧、装身具）の抜きだし作業を行った。

メソポタミア楔形粘土板文書の研究（３／５年）	ガラスビューの英語版作成は技術的な問題が発生したため作業を休止し、くさび形文字粘土板文書を総合的に紹介するサイト作成を進めた。「横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究」と連携して公開へ向かいたい。
エジプト関係資料の研究（１／３年）	東海大学所蔵エジプトコレクションの整理を進めた。資料の熟覧と撮影を行い、コレクションの概要を把握した。来年度にその成果を展示で公開する予定である。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室において、収蔵資料の特別公開や、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。

（１）常設展示室での実施事業

項　　目	事　業　内　容
展示更新	・写真パネル展「マルコ・ポーロが見た東アジア」（1/26～4/25）フォトヨコハマ 2013 の連携展示として開催。 ・常設展示室一部で企画展第４章「世界に広がるマルコ・ポーロ」・パネル展示「写真でたどる蒙古襲来の足跡」開催（4/27～6/30） ・特別公開「フィリピンの土器」実施（6/11～7/7）観覧者数 3,001 人 ・特別公開「シベリアの岩壁画拓本」実施（7/9～9/16）観覧者数 8,244 人 ・特別展「遣唐使は見た」第６章「シルクロードの仏教美術」開催　観覧者数 7,663人 ・特別公開「自鑪庁至烏斯蔵程站輿図」実施（12/10～12/23）観覧者数 1868 人

（２）常設展示観覧者の推移（**目標数 30,000 人**）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
２５年度	801	315	1,116	38,116	**39,232**	125.5%	306 日	128
２４年度	637	277	914	30,356	31,270	95.4%	307 日	102
２３年度	10,401	981	11,382	21,371	32,753	272.7%	306 日	107

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

開館10周年にあたる今年度は、「ユーラシア諸地域の文化交流」に関する特別展を2本開催しました。両展ともに日本とユーラシアの係わりを強く意識し、ユーラシア文化館らしいという評価を得ました。また、都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントを実施しました。

（１）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図　及び　内容・成果
特別展「マルコ・ポーロが見たユーラシア －『東方見聞録』の世界－」	一般 300円	**7,089人**（**目標数 5,600 人**）	開館 10 周年記念展示として開催。『東方見聞録』に記された 13～14 世紀のユーラシア世界を中国陶磁、イスラム陶器、絵画、漢籍など様々な資料から紹介

H25.4.27（土）～ 6.30（日） 会期 56 日	小中 150円	1日あたり 126人	した。開港記念日にゲル組立て等のイベントも実施。 ①学芸員による展示解説 ５回実施　参加者合計１５０人 ②ワークショップ 羅針盤作り、中国切り紙、民族衣装試着等を実施。 活動支援ボランティアの協力を得た。 １８回実施　参加者合計７６５人 ③連続講座 会場：１階ギャラリー ・5/11（土）「マルコ・ポーロの人物と『東方見聞録』」 講師：四日市康博（早稲田大学特別招聘研究員・本展示監修者）　参加者２７人 ・5/25（土）「『東方見聞録』から見た真珠」 講師：竹田多麻子　参加者１３人 ・6/22（土）「東西ユーラシア交流とマルコ・ポーロ」 講師：四日市康博　参加者４４人） ④講演会 「マルコ・ポーロが開いた扉」 5/18（土）講師：樺山紘一（印刷博物館館長） 会場：横浜市開港記念会館　参加者８９人 ⑤図録等刊行物の編集・発行 部数 1,000 部、定価 1,450 円、売上 385 冊 ⑥関連写真パネル展「現代に生きるマルコ・ポーロ」 4/27（土）～6/30（日）1 階ギャラリー ⑦ゲル展示 5/25（土）～6/2（日）中庭　来館者 1,112 人 ⑧活版印刷ワークショップ 凸版印刷株式会社 印刷博物館の協力にて実施。 6/1（土）参加者１４人 6/2（日）参加者１７８人
特別展「遣唐使は見た！-憧れの国際都市 長安-」 H25.11.1(金)～ H26.1.13(月・祝) 会期 58 日	一般 300円 小中 150 円	**7,663人** **（目標数** **5,800 人）** 1日あたり 132人	遣唐使という馴染みのあるテーマを軸に日本と中国を結び、さらにシルクロードへと広がる唐王朝の国際性を多数の実物資料で具体的に示した。横浜市歴史博物館の共催を得ることで、考古遺物・文献・美術工芸品を織り交ぜたこれまでにない多彩な内容となった。※横浜市歴史博物館との共催 ①担当学芸員によるギャラリートーク　６回実施 参加者：172 人 ②シンポジウム「遣唐使とユーラシア世界」 12/1（日）会場：横浜市歴史博物館 講堂

			「遣唐使の組織・推移・意義」 石井正敏（中央大学人文科学研究所長） 「唐とユーラシア（西域）」 石見清裕（早稲田大学教授） 「ユーラシア文化の東漸」 菅谷文則（奈良県立橿原考古学研究所長） 参加者１４３人 ③講座「福をよぶ中国結び お話と作品づくり」 12/23（月・祝）会場：1階図書コーナー 講師：みなみりょうこ　参加者１７人 ④ワークショップ「中国結びと剪紙」 会期中の土日祝に開催　２３回開催 会場：1階図書コーナー　参加者４１３人 ⑤ビデオ上映「生きた正倉院・雅楽」 会期中の土日祝に上映 会場：1階ギャラリー ⑥関連図書の編集・発行 部数 1000 部、定価 600 円、売上 321 冊 ⑦関連写真展「flicker～ゆらめきⅣ～西安から敦煌 1996 川島寿美恵写真展」11/16～1/17
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。

展示解説

シンポジウム

（２）企画展示室観覧者の推移（**目標数 11,400 人**）

	有料入館者（人）	無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1 日平均入館者（人）
２５年度	3,998	10,754	**14,752**	98.3%	114	129
２４年度	3,944	11,061	15,005	105.7%	131	114
２３年度	**3,566**	**10,619**	14,185	362.2%	138	103

※ユーラシア文化館と都市発展記念館は企画展示室を共用しており、ユーラシア文化館は、23・24・25 年度は 2 回の企画展示を開催しました。

（３）講座・講演会

項　　目	参加者数	内　　容
月イチ講座の開催	70人	1階ギャラリーを活用し、気軽に参加できる講座を月に一回開催した。都市発展記念館と連携 第10回「館蔵中国北方系青銅器Ⅱ」（7/6　7人） 第11回「ペルシア絵画」（8/24　18人） 第12回「館蔵ガラス資料」（9/21　7人） 第16回「館蔵シベリアの岩壁画拓本」（1/18　10人） 第17回「中国漢代の絵画について」（2/22　17人） 第18回「館蔵ガラス資料Ⅱ」（3/29　11人）

（４）普及啓発

項　　目	参加者数	事　業　内　容
開港記念日イベント H25.6.1（土）・2（日）	1,304 人	「マルコ・ポーロが見たユーラシア」の関連企画。凸版印刷株式会社 印刷博物館の協力でワークショップを開催。展示と連携させた広報で相乗効果を図った。 ① ゲル展示 5/25（土）～6/2（日）中庭　来館者 1,112 人 ② 活版印刷ワークショップ 凸版印刷株式会社 印刷博物館の協力にて実施。 6/1（土）参加者１４人 6/2（日）参加者１７８人
特別公開「シベリアの岩壁画拓本」関連ワークショップ「シベリアの古代アートをうつそう」「マンモスの牙にさわってみよう」 H25.7.9（火）～9.16（月・祝）	1,497 人	パシフィコ横浜開催の特別展「マンモスＹＵＫＡ」（読売新聞等主催）と広報上の連携を図った特別公開「シベリアの岩壁画拓本」に関連し、マンモスの牙実物を展示、また、岩壁画模型の模様を色鉛筆でカラフルに写し取るワークショップを行った。
「子どもアドベンチャー2013」の開催 H25.8.20（火）・21（水） 全２日間	23人	市内小中学生を対象に１日職業体験を実施した。 展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。
「ミュージアム・クイズラリーよこはま2013」への参加 H25.7.13（土）～9.1（日）	315人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設１５館で実施した。同時に、都市発展記念館・新聞博物館・放送ライブラリー・シルク博物館と連携して、各施設を巡るツアーも開催した（8/3・参加者 13 人）。
夏まつり H25.8.17（土）・18（日）	2,973人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「夏まつり」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベ

		ント・ワークショップを実施した。 モンゴルの童話　おはなし会　〔情文プラザ〕 　読み手：　ことりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会　協力：　中図書館 馬頭琴　きける！ひける！演奏会　〔情文プラザ〕 　演奏：　宮原洋子 体験ワークショップ〔情文プラザ〕 　・マンモスの牙にさわってみよう！ 　・シャガイで遊ぼう！　シャガイって何? 　・モンゴルの民族衣装を着てみよう　！ 　・古代アートをうつそう！ ゲルの解体
横浜都ユ大道芸 H25.10.13（日）・11.10（日） 　・12/8（日）・1/12（日）	494人	月１回第２日曜日に、中庭・旧第一玄関を利用して大道芸を開催。大道芸にあわせて旧第一玄関の大桟橋通り側の扉を開放し、歩行者の誘導を試みた。
よこはま国際フェスタ2013 H25.10.19(土)・20（日）	234人	よこはま国際フェスタ2013に参加し、ワークショップ・民族衣装試着体験など実施。市民ボランティアの協力を得た。
開館祭り H26.3.15(土)・16（日）	4,853人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「開館祭」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施。 ゲルの組立・解体〔中庭〕 モンゴルの童話　おはなし会　〔情文プラザ〕 　読み手：　ことりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会　協力：　中図書館 馬頭琴　きける！ひける！演奏会〔情文プラザ〕演奏：宮原洋子 体験ワークショップ〔情文プラザ〕 　・シャガイで遊ぼう！　シャガイって何? 　・モンゴルの民族衣装を着てみよう　！ 大道芸〔中庭〕

マンモスの牙にさわってみよう！

ゲルの解体

（６）学校連携事業

項　　目	事　業　内　容
市内学校団体見学の受入	小学校４年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、職員による解説と体験メニューを実施した。 122校　10,047人（うち、小学校4年生 104校 9,161人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	12名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。
インターンの受け入れ	1名の学生を受け入れた。当館イベントやワークショップのスタッフとして職業体験を行った。
職業体験の受け入れ	小中学生の１日職業体験（子どもアドベンチャー・前述）及び中学生を中心とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で3校6名を受け入れた。

小学生職業体験

学芸員実習

（７）市民協働事業

項　　目	事　業　内　容
市民ボランティアによるワークショップの実施	**歴史博物館の協力を得て、歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップを実施した。** ・マルコ・ポーロ展関連ワークショップのべ活動人数　86 人 ・ゲル組立ワークショップのべ活動人数　26 人 ・「中国結びと剪紙」のべ活動人数　　107 人 ・夏祭りイベントのべ活動人数　43 人 ・11 周年開館祭りのべ活動員数　52 人　　計　314 人

（８）広報

項　　目	事　業　内　容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情

	報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。 ・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展示ポスター・チラシ ・館報『News From EurAsia』第１９・２０号（各10,000部） ・横浜ユーラシア文化館紀要　第２号を発行（1,000部、3/31）
優待カードの発行	年間パス「ＥＡハマ発カード」の販売を継続した。 年会費　1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信
	テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのＰＲ 近隣へのダイレクトメール発送

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。
	文献：館蔵文献の OPAC を公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数　合計７２，０２０件（前年度６６，０６８件）

６　ユーラシア文化館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：２F，４F 常設展示室空調機修繕。地下機械室収蔵庫送風排気ファン修繕。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は予定どおり進捗しました。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも行いました。	B
調査研究事業	計画していた調査研究については、予定どおり進捗することができました。**歴史博物館や大学との連携を積極的に行いました。**	A
常設展事業	常設展については、昨年度に引き続き企画展との連動による集客のほか、都市発展記念館、学校カリキュラムとの連携を行うことで、企画展開催期間ではない時期についても、集客を図ることができました。観覧者数は前年同様目標を 30,000 人と設定。**目標数の１３０％超となりました。**	A
企画普及事業	今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、市民グループなどの協力による各種催しの実施など、数々の催しを実施しました。調査研究・企画展においては歴史博物館と連携し、事業の幅を広げました。その成果と企画展等の内容充実によって、**常設展・特別展の1日平均観覧者数と市内学校団体来校数については、過去最高の数値となりました。**	A
情報事業	定期的なメールニュースの発行、ＨＰを利用した情報発信に加えて、イベントごとに追加でチラシを作成・配布するなど広報強化に努めました。ＨＰへのアクセス数は目標 67,000 件に対し 72,020 件で目標値の 107%、対前年度比 109%でした。	B

施設維持事業	施設設備については、経年劣化した設備の修繕・交換と日常の維持管理を行いました。ガラス壁面や屋根の破損、防犯カメラや消防設備の経年劣化についても監視を続けながら、長寿命化を図っています。	B

Ⅷ　三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特色を発揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続しました。三殿台遺跡収蔵の写真等の記録資料をスキャンし、デジタル化するとともにインデックスの作成を継続しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について順次埋蔵文化財センターへ移動しています。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、住居跡保護棟の維持管理を適切に行いました。

企画普及事業として、リーフレットを配布するとともに、火起こし・勾玉作り・土偶作り・土器作り・石器作り・拓本とり体験教室、キャンプ in 三殿台、古代人体験を継続実施しました。学校や地域住民、区・市が行う行事への職員派遣・協力を積極的に行い、連携を図りました。イベント等の開催に合わせ、ホームページを更新するなど、周知に努めました。

市民協働事業として、市民ボランティアによる収蔵資料の再整理を行うとともに、ボランティアによる土曜・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。第２期指定管理期間の年間**活動参加者延べ人数目標 600 人の 127.5%を達成**できました。

刊行物・缶バッジ・土器片ペンダント販売するとともに、**新たにオリジナルクリアファイルを製作**しました。

施設の管理運営面では、事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施しました。10 月 28 日から２月 10 日まで、**横浜市による「展示・収蔵庫棟、竪穴住居跡保護棟、トイレ等の外壁その他工事」が実施**されました。この間、展示室は見学可能な状態を保ちましたが、竪穴住居跡保護棟は足場を架ける関係で、見学不能な状態でしたが、事故や来館者との間のトラブルはありませんでした。

利用者促進事業の一環として、「土器パズル」・「ダイヤモンド富士観察会」に続き、野外を活用した**「弓矢撃ち体験」（無料）を試行**しました。

総来館者数は、第２期指定管理期間平均来館者数目標 17,500 人の 88.8%、前年度比約 100.8%と微増しましたが、ほぼ前年度並みとなりました。今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

１　資料収集保管事業・調査研究事業（定款第４条第１項第１号）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（１）保管資料再整備事業

項　　目	事　業　内　容
出土品保管再整備事業	七石山横穴墓群工具痕石膏型取り４点を埋蔵文化財センターへ移動した。 収蔵庫内の棚に保管されている復元土器等の整理を行い、出土遺構単位でまとめ、整理箱に収納した。

記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管写真資料等のデジタルデータ化を継続（写真資料：228 シート、6,004 点、計約 184.25GB　調査日誌等その他記録資料：809 点、10.75GB)。「その他記録資料」については、整理作業の便に供するため、出力してファイリングを行った。その他、前年度にデジタル化した測量図面の合成作業等を実施した。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類し、138 冊の受入れを行った。事務室内の書棚を整理し、閲覧頻度の低い図書を収蔵庫の棚に移動した。

（２）調査研究事業

項　　目	事　業　内　容
三殿台遺跡出土品の資料化	北側貝塚出土資料の注記・ニス塗り・データ化を継続。 収蔵庫収納資料台帳の作成を継続。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸し出した。 出土品調査・露出展示遺構調査各１件の対応をした。

２　常設展事業（定款第４条第１項第１号）

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体および一般来館者見学時に、遺跡や展示品について解説を行いました。

（１）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項　　目	事　業　内　容
遺跡案内･展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、職員による遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について展示解説を行った。
常設展示の維持・管理、展示更新の実施	パネルの修繕等、維持・管理を適切に行った。展示室入り口・収蔵庫内の照明器具の交換工事を実施。展示更新は行っていない。

（２）住居跡保護棟の適切な保全

項　　目	事　業　内　容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを委託し、適切に実施した（７回)。 ４月 20 日、住居跡保護棟の窓ガラス８枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反射による内部の観察障害を軽減した（**４年間の実績：32/72 枚**)。

（３）管理事務所２階の活用

項　　目	事　業　内　容
管理事務所２階の活用	管理事務所の２階を体験学習室とし、記録資料の保管、遺物整理作業の場としても活用している。

常設展示状況

低反射フィルム貼付工

管理事務所２階のようす

３　企画普及事業（定款第４条第１項第２号）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、解説や体験学習を実施し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（１）企画普及事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
リーフレット配布		**リーフレットを新たに作成**し、関係各所へ配布した。
「いそっぴゴールデンウィークスタンプラリー」への参加	28 人	４月26日から５月６日の期間で、**「いそっぴゴールデンウィーク2013スタンプラリー」に**参加した。この間の来館者60人、うち景品（缶バッジ）交換者は20人。５月５日には、磯子区のマスコットキャラクターである「いそっぴ」が来館した。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験教室を開催した。　参加者78人
「子どもアドベンチャー2013」への参加	**22 人**	**「子どもアドベンチャー2013」に参加**（８月 20 日）。 午前の火起こし：幼稚園児１人、小学生 17 人、中学生２人 午後の拓本とり：小学生１人、中学生１人
いそご区民活動支援センター主催「いそご地域活動フォーラム 2013 パネル展」 に応募		９月 30 日から 10 月４日まで、磯子区役所１階区民ホールで事前展示。１０月５日、磯子公会堂にて展示。
三殿台遺跡整理ボランティア	**685 人**	収蔵資料の水洗・注記を行い、遺物収納箱 **121 箱**終了した。 ４月 13 日に資料整理ボランティア研修を行い、12 人が参加した。考古館の使命・役割、資料整理の内容と手順について説明。三殿台遺跡の発掘調査の映像を視聴。 10 月 19 日に資料整理ボランティア研修を行い、６人が参加した。板碑の拓本とり体験を実施。
三殿台遺跡ガイドボランティア	**80 人**	遺跡ガイドボランティアは年間**1,185 人**ガイドした。 ４月 14 日に、遺跡ガイドボランティア研修行い、３人が参加した。考古館の使命・役割の説明後、ガイドボランティアマニュアルをもとに展示内容の確認とガイドの方法について話し合いをした。三殿台遺跡の発掘調査の映像を視聴。 10 月 20 日に遺跡ガイドボランティア研修を行い、２人が参加した。岡村小学校６年生の質問集を題材に、

		「よくある質問」について、話し合った。
学校見学の受け入れ	2,645 人	年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、45 団体が見学した。
職業体験の受け入れ	５人	１月 28･29 日、汐見台中学校生徒２人を受け入れた。 ２月５日、岡村中学校の生徒３人を受け入れた。

「いそっぴ」の来館　５月５日

ボランティア研修　７月６日

ボランティア研修　10 月 19 日

子どもアドベンチャー2013　火起こし

子どもアドベンチャー2013　拓本とり

クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等への支援		５月７日、市立中村小学校６学年、団体見学時火起こし体験を実施。火起こし（@100）　43 人　売り上げ 4,300 円 ６月 11・18 日、９月 10・17 日、10 月 15・22 日、11 月 19・26 日に市立岡村小学校の地域交流クラブに講師として参加した。　火起こし（@100）・勾玉作り（@300）　各 10 人　売り上げ 4,000 円 ７月 25・26 日に市立上大岡小学校のサマースクールに勾玉作り教室の講師として参加した。　勾玉作り（@300）56 人　売り上げ 16,800 円
ホームページの運営		月一回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を発信した。
その他広報		（ア）体験学習の案内チラシを年３回程度作成し、磯子区・南区内の施設に配布した。 （イ）プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報を提供した。 （ウ）民間への情報提供は３件であった（レッツエンジョイ東京・マップル観光ガイド・タウンニュース誌）。

（２）体験学習事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
体験学習の実施	516 人	（ア）ゴールデンウィーク体験教室　５月３～６日 ３日：火起こし教室（@100）20人　売上げ2,000円 ４日：拓本とり教室（@100）５人　売上げ500円 ５日：勾玉作り教室（@300）26人　売上げ7,800円 ６日：石器作り教室（@300）27 人　売上げ 8,100 円 （イ）キャンプ in 三殿台 ７月 27・28 日：(@2,000）５家族 17 人　売上げ 10,000 円 （ウ）夏休み体験教室 ①火起こし教室（@100） ７月 20 日：７人　売上げ 700 円、 ８月 10 日：10 人　売上げ 1,000 円 ②勾玉作り教室（@300） ７月 21 日：７人　売上げ 2,100 円 ８月 10 日：10 人　売上げ 3,000 円 ８月 15 日：24 人　売上げ 7,200 円 ８月 25 日：８人　売上げ 2,400 円 ③土偶作り教室（@300） ８月３日：３人　売上げ 900 円 ④土器作り教室（@500） ８月４日：７人　売上げ 3,500 円 土偶・土器作り野焼き　８月 18 日　19 人 ⑤釣り針作り教室（@300） ８月 11 日　15 人 売上げ 4,500 円 ⑥拓本とり教室（@100） ８月 13 日：０人　ボランティア研修とする。５人参加 ⑦古代人体験教室（@500） ８月 17 日　４組 13 人 売上げ 2,000 円 ⑧石器作り教室（@300） ８月 24 日：８人　売上げ 2,400 円 （エ）土器作り教室 ①秋（@2,000）　９月 22・29 日、10 月６日、11 月９日 ４人　売上げ 8,000 円　粘土１kg（@300）13 kg　売上げ 3,900 円　延べ参加人数 16 人 ②冬（@2,000）　１月 13・19・26 日、３月２日 ６人　売上げ 12,000 円　粘土(@300)20 kg　売上げ 6,000 円　延べ参加人数 24 人

		（オ）勾玉作り（@300） 12 月 15 日　５人　売上げ 1,500 円 （カ）随時実施の火起こし・勾玉作り ①火起こし（@100）：77 人　売上げ 7,700 円（中村小・岡村小を除く） ②勾玉作り（@300）：57 人　売上げ 17,100 円（上大岡小を除く） うち、地域や施設と連携して行ったもの ①滝頭コミュニティーハウスの自主事業「親子で勾玉を作ろう！」を共催。三殿台考古館にて開催。６月２日　18 人 ②岡村地区保健活動推進委員会の活動の一環として実施。９月 17 日　19 人

石器作り教室

土器作り教室 野焼き

古代人体験

火起こし体験教室

勾玉作り教室

キャンプ in 三殿台

（３）展示事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
展示解説の実施	1,812 人	職員による来館者来館者への解説を実施した（うち、1,247 人は小学校６年生の団体見学）。
土器作り教室作品展	1,472 人（会期中の入館者数）	秋の土器作り教室作品展を展示室にて開催した（11 月 16 日～12 月１日）。　949 人 冬の土器作り教室作品展を展示室にて開催した（３月９日～24 日）。　523 人

（４）グッズ製作・販売事業

項　　目	事　業　内　容
缶バッジの製作・販売	記念品缶バッジの販売　販売価格１個　１００円、 ２５年度売上げ　６２２個　　６２，２００円

土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売　販売価格１個　７００円 ２５年度売上　２個　１，４００円
オリジナルクリアファイルの製作	製作のみ実施

４　三殿台考古館施設維持事業（定款第４条第１項第３号）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に不快感を与えないよう運営しました。

（１）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
経常的な維持・管理	事務棟管理　所在地：磯子区岡村四丁目 11-22 国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。遺跡内草刈り、植栽剪定
開館時間の拡大	平成 25 年度も午前９時から開館し、４月～９月は午後５時まで、10 月～３月は午後４時まで開館した。 「キャンプ in 三殿台」の開催に伴い、７月 27 夕～28 日朝まで、閉館時間帯の施設利用を行なった。 年２回、開館時間を日没まで延長し、「ダイヤモンド富士観察会」を開催した。当年度も良好な観察機会がなかった。 ①９月 26 日～30 日、参加延べ人数：26 人 ②３月 12 日～16 日、参加延べ人数：12 人 職員の施設内の定期的な巡回などの危機管理対策を実施した。

敷石の補修作業状況

復元住居壁面補修状況

ダイヤモンド富士観察会

（２）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
自動販売機売り上げ（円）	３５，４６４	３２，６９２	４０，３１８

（３）三殿台考古館施設入場者の推移（**目標数 17,500 人**）

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
三殿台考古館施設入場者（人）	１５，５４２	１５，４０９	１５，４３９

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集・ 保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化、三殿台遺跡北側貝塚などの出土資料のデータ化などを継続しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について、埋蔵文化財センターへの移動を継続しました。	B
常設展事業	常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施しました。来館者数は 15,542 人であり、目標 17,500 人の 88.8%、前年度比 100.8%となりました。	C
企画普及事業	市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を予定どおり開催し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。体験教室では、いずれも参加者に高い満足度を与えることができました。 資料整理ボランティアは延べ685人が参加しました。遺跡ガイドボランティアは延べ 80 人が参加し、1,185 人をガイドしました。**活動参加者延べ人数目標 600 人の 127.5%を達成**しました。	A
施設維持事業	遺跡内の事務棟・展示棟・竪穴住居址保護棟・復元住居・遺構表示擬木、芝生・樹木等の維持管理を適切に行いました。日常清掃・芝生の刈り込みや、トイレ清掃等については職員が行うなど経費の節減に努めました。 体験教室等で使用する事務所棟２階に空調機を設置し、環境を整えました。また、事務所棟北側外の排水管の交換工事を実施しました。 自動販売機等の売り上げは前年度比 108.5%%と微増しました。	B

収 益 事 業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

Ⅰ　歴史博物館収益事業

１　歴史博物館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）ミュージアムショップの経営

①　勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。

②　企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。

③　オリジナル商品を開発した。

（２）来館者駐車場の経営

（３）自動販売機（５台）の設置

Ⅱ　開港資料館収益事業

１　開港資料館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）ミュージアムショップの経営

①　絵はがき、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売し、売れ筋商品である絵はがきの増刷をした。また、横浜の歴史を小、中学生向きに解説した『横浜のあゆみ』第２版を作成した。

②　開港（開館）記念日にセールを実施した。

（２）自動販売機（１台）の設置

（３）喫茶室の委託

来館者サービスとして付属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Ａｕ　ｊａｒｄｉｎ　ｄｅ　Ｐｅｒｒｙ（ペリーの庭で）

Ⅲ　都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

１　都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）ミュージアムショップの経営

①　オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、地図・絵葉書・メモ帳・DVD・クリアファイルなどを販売した。また新製品としては「こぶちゃん飴」の新しい味のものや、トートバッグ、缶バッジ等の新しい柄のものを作成した。

② 委託商品の販売

各企画展やフランス月間などのイベントに合わせ、商品のラインナップを大幅に変えることで、売れ筋の商品を陳列した。

（２）自動販売機（１台）の設置

＜各事業の推移＞

（１）ミュージアムショップ売上の推移

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
横浜市歴史博物館（千円）	８，８７９	８，０９７	７，０８２
横浜開港資料館（千円）	３，８８８	５，２０２	６，１２９
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	６，０５５	６，５６０	９，１２０

（２）駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内３２台、屋外１４０台）

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
利用台数（台）	５，４６５	５，８０８	５，９５５
月あたり利用台数（台/月）	４５５	４８４	４９６
料金収入（千円）	２，１９０	２，３６５	２，３３６

（３）自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
横浜市歴史博物館（千円）	３１０	３６０	３４７
横浜開港資料館（千円）	９８	９６	９６
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	１０６	７７	７８

（４）喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館付属棟において、喫茶室を営業しました。

項　　目	平成２５年度	平成２４年度	平成２３年度
喫茶室委託料収入（千円）	１，８０７	１，７９２	１，７６１

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	ショップ売上は前年度比110%と大幅な増収を達成した。企画展に合わせた品揃えの変更や図録のセット販売など、増収策が実を結んだと言える。駐車場利用は減となり、近隣	B

	に駐車場完備の大型商業施設が増える中、当館見学のみの方以外の利用を見込むのが年々難しくなっている。収入予算に対してはショップ 111%、駐車場 114%であった。	
開港資料館事業	ミュージアムショップの売り上げは臨時閉館により減少した。自動販売機については中庭に設置してあり、工事関係者による購入もあったため、前年並みの売り上げになった。	B
都市発展記念館・ユーラシア文化館事業	ミュージアムショップの売り上げは昨年並みであった。今後も魅力あるグッズの開発につとめたい。	B